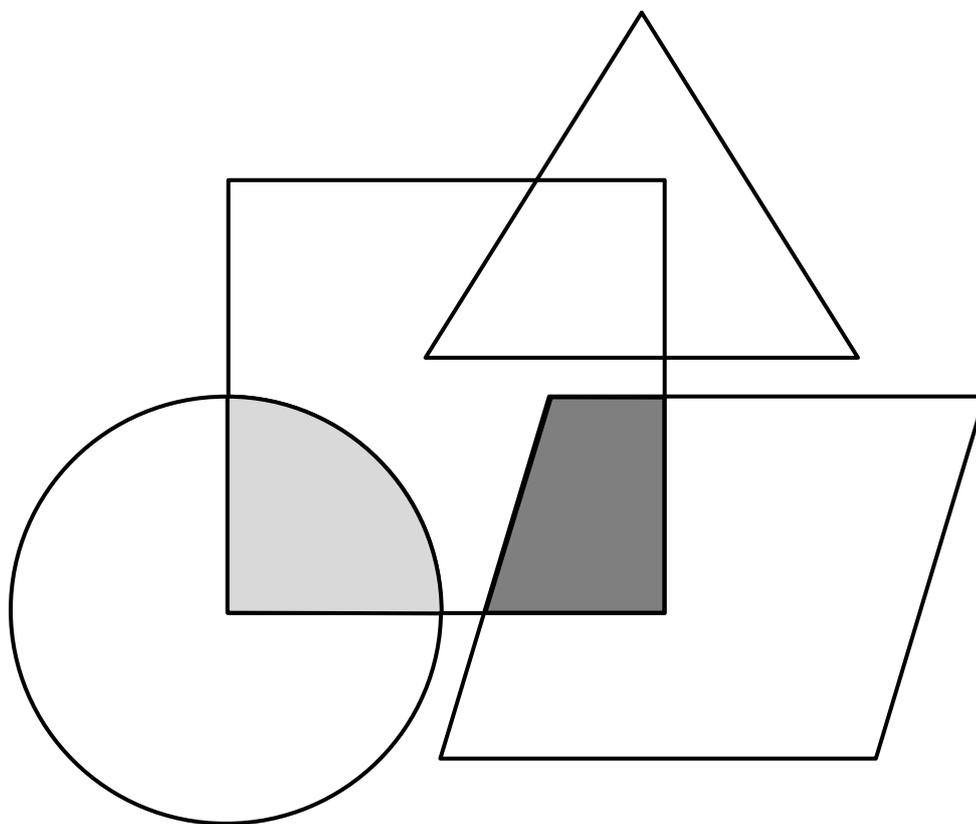


平成26年度
宮城県学力・学習状況調査

実施結果報告書



平成27年2月
宮城県教育委員会

はじめに

宮城県教育委員会では、昨年10月に7年ぶりに県独自の学力・学習状況調査を実施しました。

本調査の目的は、宮城県の児童生徒の学力や学習状況及び学校の学習に係る取組、意識等を調査することにより、児童生徒の一層の学力向上に向け、学習指導の改善と家庭学習の充実を図るとともに、本調査の結果と全国学力・学習状況調査の結果を関連付けて分析し、学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を図ることにありますが、各学校では、本調査の趣旨、目的を十分に理解し、調査結果を生かした取組を展開することが期待されております。

調査の結果によると、小5、中2の全ての教科で全国参考値との5ポイント以上の有意差は見られなかったことから、震災による厳しい環境の中、各学校で児童生徒と教師が困難を乗り越え努力を重ねてきた結果が徐々に表れてきているものと捉えております。一方で、「基礎・基本」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、小5、中2ともに全ての教科で全国参考値を下回っており、領域別では、小5、中2の国語の「書くこと」や中2の英語の「書くこと」、中2の数学では全領域で全国参考値を下回っており、いずれも改善が必要であると考えております。また、全体の1～2割程度の児童生徒が「家庭学習がやりにくい」「授業に集中できない」「気持ちが落ち着かなくなる」など震災の影響があると回答していることから、今後とも子供の心のケアに努め、落ち着いて学習ができるよう学習環境の整備をより一層進めていく必要があります。

県教育委員会では、このような調査結果を踏まえ、宮城県検証改善委員会を設置し、本県の児童生徒の学力向上に向けての結果分析と対応策等について協議・検討を重ねてまいりました。

特に、この調査においては、児童生徒一人一人の学習状況の把握はもとより、今後の指導や学習の改善に生かしていくことが重要であるため、各教科において課題が見られた点について検討し、指導改善のポイントを示すとともに、全国学力・学習状況調査と連動した対応策を講じることができるよう全国学力・学習状況調査との関連についても記載するなど、今後の改善の方向性をまとめました。

各学校においては、本報告書を積極的に活用するとともに、未だに多くの子供たちに震災の影響が残っているということを心に留め、子供一人一人の心情にも配慮しながら「子供に声掛けし、声を聴く」「子供をほめ、認める」などの学力向上に向けた「5つの提言」を大切にされた授業づくりを行い、魅力ある学校づくりを推進していくことが重要であると考えております。

本報告書が、児童生徒の学力向上を図る手がかりとなり、各学校は無論のこと家庭や地域においても積極的に活用されることを願いますとともに、学校、家庭、地域が一体となって一層の学力向上への取組が進むよう期待しております。

平成27年2月

宮城県教育委員会教育長 高橋 仁

平成26年度 宮城県学力・学習状況調査

調査結果報告書

<目次>

はじめに

1. 実施状況

(1) 調査の目的	3
(2) 調査実施期日	3
(3) 調査対象	3
(4) 調査事項及び内容	3
(5) 実施校	3
(6) 実施児童生徒数	3

2. 調査結果

(1) 教科に関する調査結果	4
(2) 学年・教科ごとの宮城県平均正答率	4
(3) 小学校第5学年国語の調査結果と今後の対策	5
(4) 小学校第5学年算数の調査結果と今後の対策	8
(5) 中学校第2学年国語の調査結果と今後の対策	11
(6) 中学校第2学年数学の調査結果と今後の対策	14
(7) 中学校第2学年英語の調査結果と今後の対策	17

3. 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒質問紙調査

① 学力向上に向けた5つの提言と関連する事項	20
② 震災の影響	24
③ 学習の理解度	25
④ 基本的な生活習慣	26
⑤ 自尊意識・規範意識	28

(2) 学校質問紙調査

① 学力向上に向けた5つの提言と関連する事項	30
② 震災の影響	31
③ 指導方法	31
④ 学力向上に向けた取組	32

(3) 児童生徒質問紙結果と学校質問紙調査結果の乖離

	33
--	----

4. 今後の対応

	34
--	----

資料1 「基礎・基本の確実な定着を図るために」 35

資料2 「学力向上に向けた5つの提言」 40

平成26年度宮城県学力・学習状況調査結果について

宮城県教育委員会

1 実施状況

(1) 調査の目的

- ① 宮城県の児童生徒の学力や学習状況及び学校の学習に係る取組、意識等を調査することにより、児童生徒の一層の学力向上に向け、学習指導の改善と家庭学習の充実を図るとともに、今後の教育施策の企画・立案に活用する。
- ② 本調査の結果と全国学力・学習状況調査の結果を関連付けて分析することにより、学校における教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を図る。

(2) 調査実施期日等

平成26年10月28日(火)

(3) 調査対象(仙台市を除く)

- ① 小学校5年生及び特別支援学校小学部5年生の全児童
- ② 中学校2年生及び特別支援学校中学部2年生の全生徒

(4) 調査事項及び内容

- ① 教科に関する調査
 - ・小学校5年生：国語，算数
 - ・中学校2年生：国語，数学，英語
 - ※基礎・基本に関する問題が全体の約8割
 - ※思考力・判断力・表現力に関する問題が全体の約2割
- ② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

(5) 実施校

- ① 小学校調査 273校
- ② 中学校調査 143校

(6) 実施児童生徒数

- ① 小学校調査 11,287人
- ② 中学校調査 11,478人

2 調査結果

(1) 教科に関する調査結果

- 全体の平均正答率では、小5、中2の全ての教科で「全国的期待値（参考値）」※（以下「全国値」という。）との5ポイント以上の有意差は見られなかった。
- 「基礎・基本」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、小5・中2ともに、全ての教科で全国値を下回っており課題が見られる。
- 小5の国語では、「話すこと・聞くこと」は身に付いているが、「書くこと」に課題がある。また、算数では、「数と計算」、「図形」、「数量関係」については概ね身に付いているが、「量と測定」にやや課題がある。
- 中2の国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は概ね身に付いているが、「書くこと」に課題がある。数学では、全領域において全国値を下回っている。特に「資料の活用」に課題が見られる。また、英語では、「聞くこと」は概ね身に付いているが、「書くこと」に課題がある。

(2) 学年・教科ごとの宮城県平均正答率（全体、基礎・基本、思考力・判断力・表現力）

校種	教科	全体		基礎・基本		思考力・判断力・表現力	
		宮城県 平均正答率	全国値	宮城県 平均正答率	全国値	宮城県 平均正答率	全国値
小学校	国語	63.8	67.7	67.9	72.0	46.0	48.8
	算数	74.4	74.0	76.2	76.4	67.5	64.7
中学校	国語	65.3	67.6	67.4	69.7	53.7	55.4
	数学	58.9	63.2	61.5	66.0	49.7	53.1
	英語	69.3	70.7	73.8	75.3	53.9	55.3

※全国的期待値（参考値）について

実施初年度であり、経年比較ができないことから、全国的な水準で期待すべき想定平均正答率を任意に設定した参考値である。

※平均正答率を示した表において、網掛けは全国値を5ポイント以上上回ったもの。▼は全国値を5ポイント以上下回ったもの。

(3) 小学校第5学年国語の調査結果と指導改善の対策

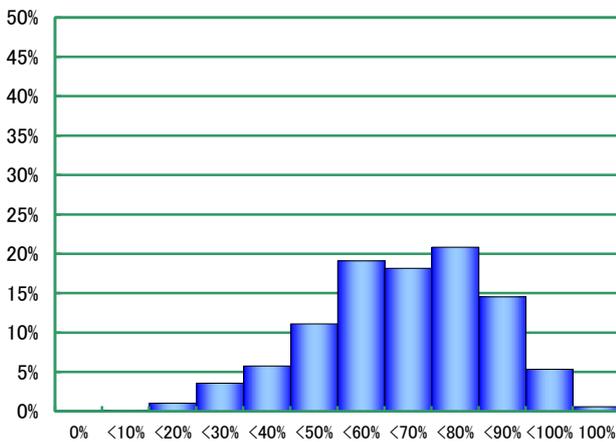
○ 「話すこと・聞くこと」は身に付いているが、「書くこと」に課題がある。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」とともに、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。
- ・領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」は身に付いているものの、「書くこと」に課題が見られる。また、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。

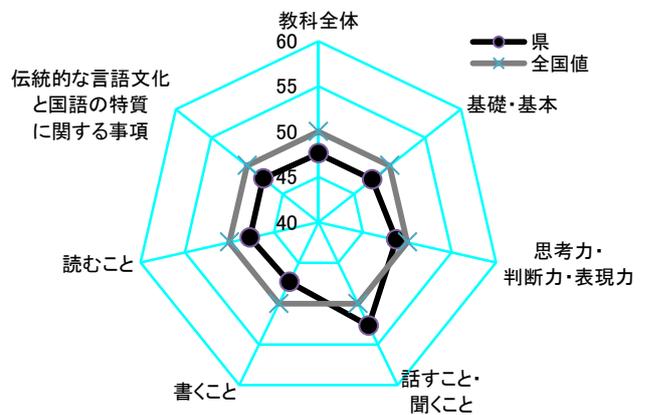
〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	63.8	67.7
	基礎・基本	67.9	72.0
	思考力・判断力・表現力	46.0	48.8
領域	話すこと・聞くこと	68.6	61.3
	書くこと	▼ 59.9	67.5
	読むこと	61.2	66.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.9	71.2

〈正答率度数分布〉



〈区分別平均正答率の比較〉



※各区分の値は、全国値を50とした場合の標準スコアを表します。

〈問題の内容別平均正答率〉

	教科の正答率	話し合いの内容を聞き取る	漢字を読む	漢字を書く	言葉の学習	資料から読み取ったことを書く	物語の内容を読み取る	説明文の内容を読み取る	ポスターと話し合いの内容を読み取る	作文
県	63.8	68.6	93.3	▼67.4	46.7	60.9	70.2	▼65.0	▼42.0	▼59.4
全国値	67.7	61.3	96.1	73.1	51.0	58.7	72.3	70.2	50.0	71.9

☆ 課題と指導改善の対策

○ これまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

- ① 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「言葉の学習」における「文の定義の理解」については、全国値を5ポイント以上下回っており、依然として課題が見られる。
- ② 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「言葉の学習」における「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」については、全国値を5ポイント以上下回っており、依然として課題が見られる。

○ 課題

- ③ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「漢字を書く」内容では全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。
- ④ 「読むこと」の領域の「説明文の内容を読み取る」内容では全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。
- ⑤ 「読むこと」の領域の「ポスターと話し合いの内容を読み取る」内容では全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。
- ⑥ 「書くこと」の領域の「作文」では全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。

○ 指導改善の対策

① 文の定義の理解を確実にするために

- ・文を単位として文と文とのつながりを論理的に関係付けながら、文章を読んだり書いたりできるようにする。
- ・一つの段落の中にいくつの文が含まれているかを捉えたり、一文の中の主語や述語に印を付けたりするなどの指導を繰り返し行う。

② 文と文の意味のつながりを考え、接続語を使って内容を分けて書くことができるために

- ・単文、重文、複文などの構造で書かれた文の内容を捉え、一文を複数の文に分けたり、内容のまとまりを簡条書きにしたりできるようにする。
- ・一文が長くなりすぎないように接続語や文末表現を工夫しながら、伝えたいことを簡潔に書かせる。

③ 漢字を正しく書くために

- ・文や文章を書く際に、学習した漢字を意識して使う習慣を高め、日常生活の中で適切に使うことができるようにする。
- ・学習した漢字の読み書きに関する間違いやすいところを日常的に確認するとともに、文や文章の中で正しく使用しているかどうかを自分で評価できるようにする。

④ 説明的な文章の内容を的確に押さえるために

- ・目的や必要に応じて、文章の中心となる事柄や、理由や根拠となっている内容に注意して読むことができるようにする。
- ・課題に応じて必要な情報を取り出し、元の文章の表現や構成を生かして、要点に注意しながら要約する指導を繰り返し行う。

⑤ 資料を目的に応じて読み取るために

- ・文章と図表やグラフ等の資料が複合した題材を取り上げ、情報を正確に捉えたり取捨選択したりして、目的や意図に応じて主体的に活用できるようにする。
- ・資料から得た情報に対する考えを交流し合う活動を充実させ、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

⑥ 伝えたい事柄を明確にして相手に分かるように書くことができるために

- ・「何を」伝えるかという目的意識と「誰に」伝えるかという相手意識を明確にして書かせる。
- ・優れた文章モデルを意図的に提示しながら、様々な条件に合わせて書くことの指導を繰り返し行う。

【小問別の問題内容と正答率(小学校 国語)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点				活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	全国値	無答率		
					話	書	読	言										
1	1	(1)		選択	◎					話すこと・聞くこと	話し合いの内容を聞き取る	話の中心に気をつけて聞くことができる。	5・6年A(1)エ	81.2	85.7	0.1		
2		(2)	選択	◎					72.2				52.0	0.2				
3		(3)	記述	◎	○			表	互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合おうとすることができる。				5・6年A(1)イ・オ	52.4	46.1	16.4		
4	2	(1)	①	短答				◎	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	漢字を読む	漢字を読む	第4学年配当漢字を読むことができる。	3・4年伝国(1)ウ(イ)	99.3	98.5	0.2		
5			②	短答				◎						98.8	97.4	0.3		
6			③	短答				◎						▼ 81.7	92.5	5.4		
7		(2)	①	短答				◎		漢字を書く	漢字を書く	第3学年配当漢字を書くことができる。	5・6年伝国(1)ウ(ア)	▼ 70.8	76.3	6.9		
8			②	短答				◎		漢字を書く	漢字を書く	第4学年配当漢字を書くことができる。		▼ 70.0	77.7	7.7		
9			③	短答				◎		漢字を書く	漢字を書く	第4学年配当漢字を書くことができる。		61.4	65.3	18.5		
10		3	(1)		選択					言葉の学習	言葉の学習	文の構成(連体修飾語)を理解している。	3・4年伝国(1)イ(キ)	86.7	79.4	0.1		
11			(2)	選択				◎						ローマ字を理解している。	3・4年伝国(1)ウ(ア)	▼ 56.4	64.5	1.8
12			(3)	①	短答									◎	文の定義を理解している。	1・2年伝国(1)イ(カ)	▼ 27.0	36.5
13	②			短答		○		◎	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができる。					3・4年伝国(1)イ(ク)	▼ 16.5	23.4	25.6	
14	4	ア		短答				書くこと	資料から読み取ったことを書く	目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くことができる。	5・6年B(1)エ	79.0	72.4	8.2				
15		イ	記述				◎					42.9	44.9	12.8				
16	5	(1)		選択				読むこと	物語の内容を読み取る	場面の情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。	5・6年C(1)エ	▼ 72.3	80.1	0.6				
17		(2)	選択				◎					82.2	85.8	0.7				
18		(3)	選択				◎					思	56.0	51.1	2.5			
19	6	(1)		選択				読むこと	説明文の内ようを読み取る	中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係を考えることができる。	5・6年C(1)ウ	80.8	84.3	1.1				
20		(2)	短答				◎					表	目的に応じて、内容を大きくまとめながら読むことができる。	▼ 37.3	46.8	5.6		
21		(3)	選択				◎					76.9	79.5	2.9				
22	7	(1)		選択				読むこと	ポスターと話し合いの内ようを読み取る	資料を目的に応じて読み、内容を的確にとらえることができる。	5・6年C(1)ウ	▼ 47.4	54.8	4.5				
23		(2)	記述		○		◎					表	資料を読み取って、適切な言葉を使って文を書き直すことができる。	▼ 36.6	45.2	20.6		
24	8			記述				書くこと	作文	指定された長さで文章を書くことができる。	5・6年B(1)ア	▼ 49.8	64.9	19.8				
25				記述			◎					○	2段落構成で文章を書くことができる。	5・6年B(1)イ	▼ 51.2	68.0	19.8	
26				記述								◎	中心を明確にししながら、段落の続き方に注意して書くことができる。	5・6年B(1)ウ	71.2	74.4	19.8	
27				記述								◎	▼ 65.2	80.1	19.8			

※「県平均正答率」において、網掛けは全国値を5ポイント以上上回ったもの。▼は全国値を5ポイント以上下回ったもの。

※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

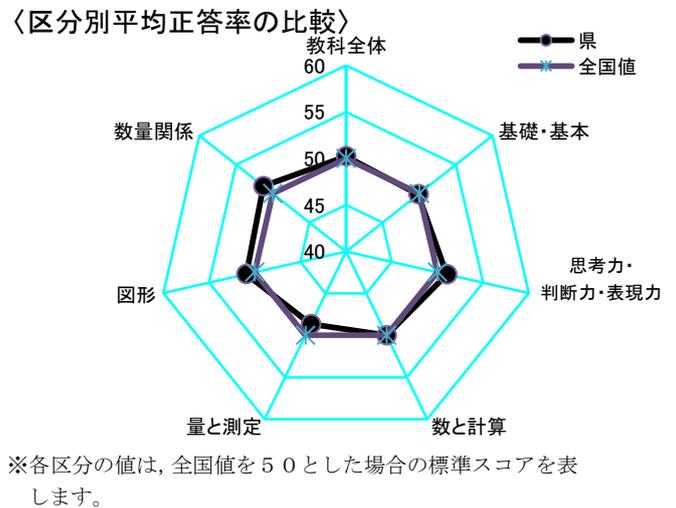
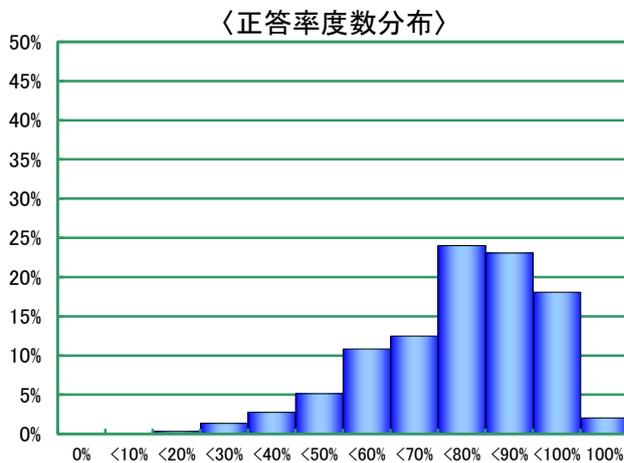
(4) 小学校第5学年算数の調査結果と指導改善の対策

○ 「数と計算」、「図形」、「数量関係」については概ね身に付いているが、「量と測定」にやや課題がある。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかった。「思考力・判断力・表現力」については、全国値をやや上回っており概ね身に付いている。
- ・領域別に見ると、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、「量と測定」については全国値を下回っており、やや課題が見られる。

〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	74.4	74.0
	基礎・基本	76.2	76.4
	思考力・判断力・表現力	67.5	64.7
領域	数と計算	78.4	78.4
	量と測定	74.9	79.1
	図形	75.8	73.9
	数量関係	67.9	65.4



〈問題の内容別平均正答率〉

	教科の正答率	小数・整数の計算	小数と整数のしくみ	分数	概数	角の大きさ	面積・体積	垂直・平行, 合同	計算のきまり	折れ線グラフと表
県	74.4	72.4	91.2	84.4	▼61.9	83.1	▼69.4	75.8	65.9	69.3
全国値	74.0	71.9	91.4	81.4	68.9	81.9	77.2	73.9	67.1	64.3

☆ 課題と指導改善の対策

○ これまでの全国学力・学習状況調査等において課題となっている問題

- ① 「概数」については、全国値を5ポイント以上下回っており、依然として課題が見られる。

○ 課題

- ② 「量と測定」の領域の「面積・体積」で全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。
- ③ 「数量関係」の領域の「計算のきまり」における「伴って変わる二つの数量の関係を式に表わす」については、全国値を10ポイント以上下回っており、中学校における「関数」の学習との関連という観点からも課題が見られる。

○ 指導改善の対策

① 概数を正しく求められるようにするために

- ・「○の位を四捨五入して概数に表す」、「○の位までの概数で表す」、「四捨五入して上から○けたの概数で表す」という表現をできるだけ活用し、言葉の意味が理解できるように指導する。
- ・指定された概数の範囲を数直線に表す活動を位置付け、概数を視覚的、感覚的に捉えさせる。
- ・算数科のみならず、他教科等の学習や日常生活（買い物場面など）と関連付けながら、概数を用いると大きさが捉えやすくなることや、物事の判断や処理が容易になること、見通しが立てやすくなることなど、概数で表すことのよさを実感させる。

② 面積や体積を正しく求められるようにするために

- ・必要でない情報を含む問題を提示したり、必要な長さを実際に測定して取り出させたりして、「たて」、「横」、「高さ」、「一辺」、「底辺」などの理解を確実にし、問題解決に必要な情報を読み取り、求め方を記述する活動を取り入れる。
- ・一つの立体図形から、一通りだけでなく幾つかの展開図を書かせる活動を行い、辺や面のつながり、それらの位置関係（平行や垂直の関係）などを確かめたり、説明したりすることを通して、図形についての見方や感覚を豊かにする。

③ 伴って変わる二つの数量の関係を見付けられるようにするために

- ・操作や実験を通して得られた数値を表にまとめたり、まとめた表を縦や横に見たりしながら変化や対応のきまりを式や言葉で表現し、説明する活動を取り入れた指導を行う。
- ・表やグラフにまとめる活動を通して、二つの数量の変化や対応のきまりを発見する楽しさとともに、見いだした規則がいつでも成り立っていることを確かめる活動を取り入れることで、そのよさや有用感を味わわせる指導を行う。
- ・様々な変わり方を比較・検討する活動を取り入れ、伴って変化する感覚を身に付けさせる。

【小問別の問題内容と正答率(小学校 算数)】

通し番号	大問番号	中問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	全国値	無答率
				考	技	知								
1		(1)	短答	◎				数と計算	小数・整数の計算	小数(小数第一位)×小数(小数第一位)の小数の乗法の筆算ができる。	5年A(3)イ	82.7	85.9	0.2
2		(2)	短答	◎			小数(小数第一位)÷整数の小数の除法の筆算ができる。			4年A(5)ウ	92.1	92.6	0.6	
3		(3)	短答	◎			小数(小数第一位)+整数の加法の計算ができる。			3年A(5)イ	72.9	61.7	0.2	
4		(4)	短答	◎			数量関係	計算のきまり	加法と乗法の混合した整数の計算ができる。	4年D(2)ア	87.6	80.0	0.4	
5	2	(1)	短答	◎			数と計算	分数	分母が同じ分数の減法の計算ができる。	4年A(6)イ	96.3	94.0	0.2	
6		(2)	短答	◎					分母が同じ分数(帯分数)の加法の計算ができる。		94.7	93.3	0.5	
7	3	(1)	選択	○	◎			小数と整数のしくみ	1と0.1, 0.001の個数から, その数を表すことができる。	4年A(5)ア	88.2	89.1	0.0	
8		(2)	選択	○	◎				小数の相対的な大きさを理解している。		95.1	97.1	0.0	
9		(3)	選択	◎	○				小数を1/10にした数を求めることができる。		90.3	87.9	0.1	
10	4	(1)	選択	◎	○			小数・整数の計算	小数倍のときの比較量を求める式がわかる。	5年A(3)イ	77.2	78.4	0.1	
11		(2)	選択	◎	○		小数倍のときの基準量を求める式がわかる。		37.2		41.0	0.2		
12	5	(1)	短答		◎		分数	単位分数の個数から, その数を表すことができる。	4年A(6)ア, イ	85.6	83.5	2.4		
13		(2)	選択	○	◎			帯分数, 仮分数, 真分数, 整数を大小順に並べることができる。		60.9	54.9	0.7		
14	6	(1)	選択		◎		概数	千の位までの概数の表し方を理解している。	4年A(2)イ	▼ 69.2	77.5	0.4		
15		(2)	短答	○	◎			示された位までの概数にする際, 一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している。		▼ 54.7	60.2	1.7		
16	7		選択		○	◎	量と測定	角の大きさ	分度器を使って正しい角度を読むことができる。	4年B(2)イ	86.1	82.6	0.1	
17	8		選択	◎		○			思	230°の角の大きさの見当をつけることができる。	4年B(2)ア, イ	80.1	81.2	0.3
18	9		短答		○	◎		面積・体積	必要な長さをよみとって, 正方形の面積を求めることができる。	4年B(1)イ	▼ 64.4	76.3	0.8	
19	10		選択	◎			思		複合図形で, 面積を求める式から求め方がわかる。	4年B(1)イ	77.5	76.9	0.5	
20	11		選択	◎	○				展開図から直方体の体積を求めることができる。	5年B(2)イ	▼ 66.3	78.3	1.1	
21	12		選択			◎	図形	垂直・平行, 合同	垂直な直線の位置関係を理解している。	4年C(1)ア	▼ 72.7	77.9	0.4	
22	13		選択			◎			ひし形の定義や特徴を理解している。	4年C(1)イ	72.9	68.3	0.2	
23	14		選択			◎			直方体において, 平行な辺を理解している。	4年C(2)イ	83.9	77.7	0.3	
24	15		記述	○		◎			表	平行な直線の作図の仕方を理解している。	4年C(1)ア	66.3	66.9	9.9
25	16		選択	○		◎				合同の定義を理解し, 様々な三角形から合同な三角形を見つけることができる。	5年C(1)イ	83.0	78.7	0.3
26	17		短答	◎		○	数量関係	計算のきまり	伴って変わる二つの数量の関係を式に表すことができる。	4年D(2)ウ	▼ 35.3	45.4	8.3	
27	18	(1)	選択		◎	○				分配法則を適用した計算の工夫について理解している。	4年D(3)ア	72.9	72.1	0.6
28		(2)	選択		◎	○				小数の計算にも分配法則が適用できることを理解している。	5年A(3)ウ	67.9	70.9	0.9
29	19	(1)	選択			◎			二次元表のよみ方・かき方を理解している。		95.4	89.5	0.5	
30		(2)	選択	○		◎			二次元表をよみとることができる。	4年D(4)ア	71.5	68.3	0.6	
31		(3)	記述	◎		○		表	二次元表をよみとり, 縦と横の分類項目を見て, 対象のマスがどのような意味をもっているか指摘できる。		71.5	71.4	2.6	
32		(1)	短答	○		◎		思	3つの折れ線グラフを正しくよみとることができる。	4年D(4)イ	48.1	43.0	2.4	
33	20	(2)	短答	○		◎	思	棒グラフを正しくよみとることができる。	3年D(3)ア	89.3	83.8	1.9		
34		(3)	短答	◎		○	思	2種類のグラフをよみとることができる。	3年D(3)ア 4年D(4)イ	39.9	29.5	2.5		

※「県平均正答率」において、網掛けは全国値を5ポイント以上上回ったもの。▼は全国値を5ポイント以上下回ったもの。

※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

(5) 中学校第2学年国語の調査結果と指導改善の対策

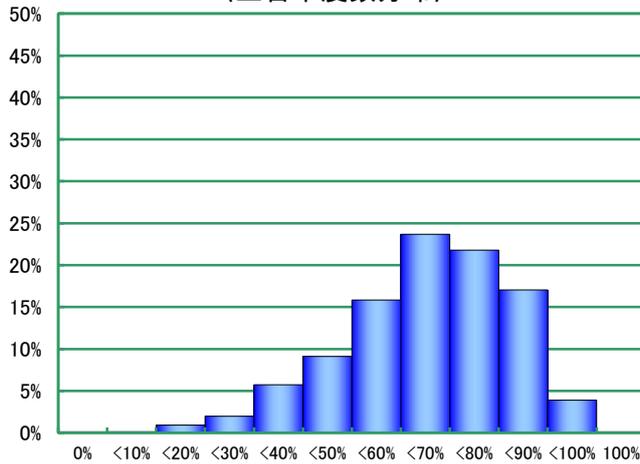
○ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は概ね身に付いているが、「書くこと」に課題がある。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」ともに、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。
- ・領域別に見ると、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国値をやや上回るものの、その他の領域については全国値を下回っている。特に「書くこと」については、全国値を下回っており課題が見られる。また、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については、5ポイント以上の有意差は見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。

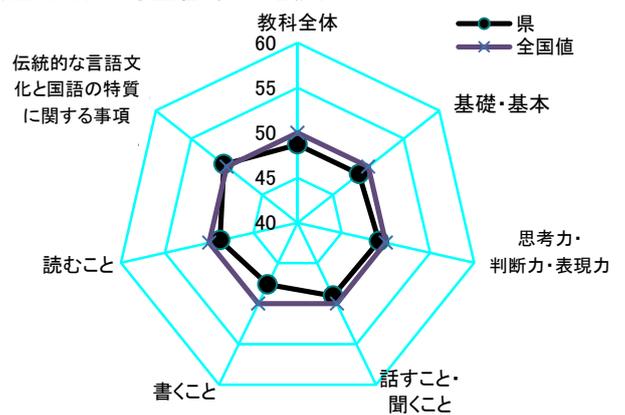
〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	65.3	67.6
	基礎・基本	67.4	69.7
	思考力・判断力・表現力	53.7	55.4
領域	話すこと・聞くこと	75.3	77.4
	書くこと	▼ 67.0	75.8
	読むこと	59.9	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.5	64.7

〈正答率度数分布〉



〈区分別平均正答率の比較〉



※各区分の値は、全国値を50とした場合の標準スコアを表します。

〈問題の内容別平均正答率〉

	教科の正答率	話し合いの内容を聞き取る	話し合いの司会の役割を捉える	漢字を読む	漢字を書く	文法・語句に関する知識	説明文の内容を読み取る	文学作品の内容を読み取る	2枚のカードの内容を比較する	作文
県	65.3	78.2	70.9	71.6	58.6	66.3	57.4	63.6	▼58.7	▼67.0
全国値	67.6	80.6	72.6	71.2	56.6	66.3	56.9	67.4	66.6	75.8

☆ 課題と指導改善の方策

○ これまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

- ① 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「文法・語句に関する知識」における「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」については、全国値を10ポイント以上回っており、大幅な改善が見られる。

○ 課題

- ① 「読むこと」の領域の「2枚のカードの内容を比較する」内容では、「カードを書きかえた意図を読み取ること」をねらいとした問題が、全国値を10ポイント以上回っており、課題が見られる。
- ② 「書くこと」の領域の「作文」では、「指定された文字数や段落構成で条件に従って書く」が全国値を10ポイント以上回っており、課題が見られる。また、「伝えたい事柄を明確にして書く」についても全国値を5ポイント以上回っており、課題が見られる。

○ 指導改善の対策

- ① 筆者の意図を的確に捉えたり、表現の仕方や工夫を比較して読み取ったりするために
 - ・書き手の意図や目的に応じた表現の仕方の具体例を提示し、その効果について理解させるとともに、様々な文種に触れさせ、文種に応じた表現の仕方の違いについて考えさせる。
 - ・文章に表れているものの見方・考え方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめさせる。その上で、ペア学習やグループ学習を取り入れ、一人一人の思いや考えを表出させる。
 - ・文章と図表やグラフ等の資料が複合した題材を取り上げ、情報を正確に捉え、それらに関係付けて、書き手の意図を推論したり、自分の考えに生かしたりする言語活動を充実させる。
 - ・目的意識をもって主体的に文章を読むことができる具体的な言語活動を設定する。
- ② 指定された条件に従って、伝えたい事柄を明確にして書くことができるために
 - ・規定や条件(時間・字数・文章の形態や種類・使用語彙・文体・構成・技法等)に応じて、伝えたいことを書く指導を繰り返し行う。
 - ・自分の意見や考えを、根拠に基づいて書くことができるようにする。その根拠が、読み手を納得させるものであるかどうかを吟味・判断し、有効に活用できるようにする。
 - ・教師による評価だけでなく、生徒相互の評価も大切にする。相互評価により、相手に効果的に伝わる書き方を身に付けさせる。
 - ・生徒の実態に応じて、記述する分量や時間を効果的に設定し、書くことへの抵抗感を軽減する。また、記述した内容を作品化するなど、書く意欲の喚起と持続化を図れるように工夫する。

【小問別の問題内容と正答率(中学校 国語)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点				活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	全国値	無答率	
					話	書	読	言									
1	1	(1)		選択	◎					話し合いの内容を聞き取る	話の内容を正確に聞き取ることができる。	2年A(1)エ	92.3	93.0	0.4		
2		(2)	選択	◎					聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。		80.6		84.7	0.5			
3		(3)	選択	◎							61.7		64.1	0.5			
4	2	(1)		選択	◎				話し合いの司会の役割をとらえる	話し合いの方向をとらえて司会の役割を果たすことができる。	2年A(1)オ	89.2	90.5	0.5			
5		(2)	短答	◎								52.7	54.7	0.3			
6	3	(1)	①	短答				◎	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	漢字を読む	第2学年までに学習した漢字を読むことができる。	2年伝国(1)ウ(ア)	98.2	98.1	0.7		
7			②	短答				◎					20.4	23.9	22.7		
8			③	短答				◎					99.1	99.1	0.4		
9			④	短答				◎					68.5	63.5	4.4		
10		(2)	①	短答				◎		漢字を書く	小学校で学習した漢字を書くことができる。	2年伝国(1)ウ(イ)	49.7	41.5	22.7		
11			②	短答				◎					▼ 39.0	44.3	29.1		
12			③	短答				◎					85.4	79.2	4.3		
13			④	短答				◎					60.3	61.4	29.3		
14		4	(1)		選択			◎		文法・語句に関する知識	文の成分について理解している。	2年伝国(1)イ(ウ)	70.3	71.8	0.5		
15			(2)	短答				◎					単語について理解している。	1年伝国(1)イ(エ)	▼ 57.0	69.5	0.9
16			(3)	短答				◎					歴史的仮名づかいを現代仮名づかいに直すことができる。	1年伝国(1)ア(ア)	76.0	65.4	14.2
17			(4)	選択				◎					画数について理解している。	2年伝国(1)ウ(ア)	61.7	58.4	0.7
18		5	(1)		選択			◎		説明文の内容を読み取る	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	2年C(1)イ	85.4	86.9	0.8		
19	(2)		選択				◎	50.8	55.4				0.8				
20	(3)		選択				◎	76.8	78.6				1.0				
21	(4)		選択				◎	思	52.2				47.0	2.6			
22	(5)		記述			○◎		表	21.7				16.4	13.3			
23	6	(1)		選択			◎	読むこと	文学作品の内容を読み取る	2年C(1)ウ	37.7	39.5	1.7				
24		(2)	選択				◎				登場人物の様子をとらえることができる。	87.6	88.9	1.2			
25		(3)	選択				◎				登場人物の心情をとらえることができる。	2年C(1)イ	▼ 52.1	60.7	1.6		
26		(4)	選択				◎				思	77.1	80.6	1.6			
27	7	(1)		選択			◎	2枚のカードの内容を比較する	2枚のカードの書き方の工夫をそれぞれ読み取り、比較することができる。	2年C(1)ウ	73.6	74.9	1.8				
28		(2)	記述			○◎					表	▼ 43.9	58.3	10.8			
29	8			記述			◎	書くこと	作文	2年B(1)イ	指定された文字数で書くことができる。	▼ 74.2	85.6	9.7			
30				記述			◎				○	3段落構成で文章を書くことができる。	▼ 64.1	74.9	9.7		
31				記述			◎						84.0	87.6	9.7		
32				記述			◎					伝えたい事柄を明確にして書くことができる。	2年B(1)ウ	▼ 62.4	71.7	9.7	
33				記述			◎				▼ 50.3	59.3	9.7				

※「県平均正答率」において、網掛けは全国値を5ポイント以上上回ったもの。▼は全国値を5ポイント以下下回ったもの。
 ※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

(6) 中学校第2学年数学の調査結果と指導改善の対策

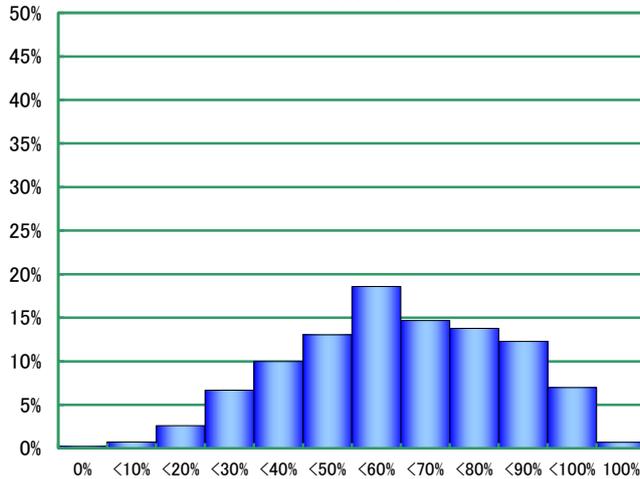
○ 全領域において全国値を下回っている。特に「資料の活用」に課題が見られる。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」とともに、5ポイント以上の有意差が見られなかったものの、全国値を下回っておりやや課題が見られる。
- ・領域別に見ると、特に「資料の活用」で全国値を下回っており課題が見られる。また、「数と式」「図形」及び「関数」についても、5ポイント以上の有意差が見られなかったものの全国値を下回っておりやや課題が見られる。

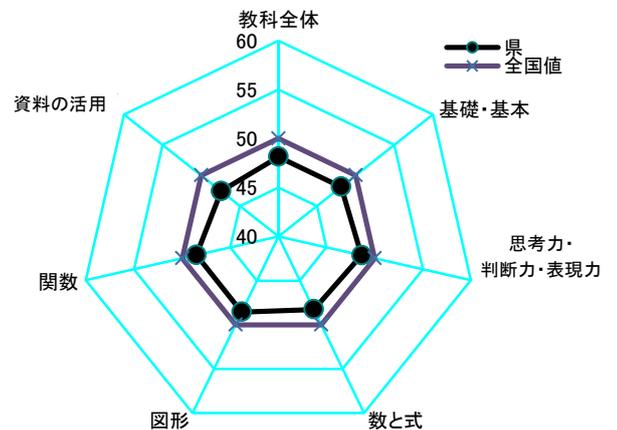
〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	58.9	63.2
	基礎・基本	61.5	66.0
	思考力・判断力・表現力	49.7	53.1
領域	数と式	63.6	68.2
	図形	49.3	53.3
	関数	57.9	61.3
	資料の活用	▼ 61.2	66.3

〈正答率度数分布〉



〈区分別平均正答率の比較〉



※各区分の値は、全国値を50とした場合の標準スコアを表します。

〈問題の内容別平均正答率〉

	教科の正答率	式の計算	方程式・連立方程式	比例・反比例	1次関数	平面図形・空間図形	資料の散らばりと代表値
県	58.9	▼62.4	64.8	50.4	67.2	49.3	▼61.2
全国値	63.2	68.9	67.5	54.8	69.5	53.3	66.3

☆ 課題と指導改善の対策

○ これまでの全国学力・学習状況調査等において課題となっている問題

- ① 「資料の活用」の領域の「資料の散らばりと代表値」の内容で全国値を5ポイント以上下回っており、依然として課題が見られる。
- ② 「図形」の領域の「平面図形・空間図形」における「空間における2直線の位置関係の理解」で、全国値を5ポイント以上下回っており、依然として課題が見られる。

○ 課題

- ③ 「図形」の領域の「平面図形・空間図形」における「垂線の作図方法を理解し、記述する」問題で全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。
- ④ 「数と式」の領域の「式の計算」の内容で全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。
- ⑤ 「関数」の領域の「比例・反比例」における「 x と y の反比例の関係を表す表から式を求めること」については、全国値を5ポイント以上下回っており、小学校における「伴って変わる二つの数量の関係を式に表すこと」の学習との関連という観点からも課題が見られる。
- ⑥ 「数と式」の領域の「方程式・連立方程式」における「与えられた二元一次方程式の解を選択すること」、「連立方程式を代入法で解くこと」については、全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。

○ 指導改善の対策

- ① 代表値の意味を理解できるようにするために
 - ・資料の特徴を分析するために必要だと考える代表値を選択し、その代表値を根拠にして考えを記述したり、説明し伝え合ったりする活動を取り入れる。
 - ・どの代表値を用いるかを生徒自身が判断できるようにする指導を行う。
 - ・ヒストグラムの全体の形から分かる特徴について話し合わせる活動を行う。
- ② 空間における2直線の位置関係について理解できるようにするために
 - ・見取り図を見て考えるだけでなく、実際に立体を組み立てる作業や身近な立体に触れながら、位置関係を確認する活動を取り入れる。
 - ・見取り図や展開図、立体を相互に関連付け、観察、操作や実験を通して理解できるように指導する。
- ③ 作図方法を理解し、記述することができるようにするために
 - ・図形の対称性や図形を決定する要素に着目して作図の手順を考えて図をかいたり、自分なりに説明し伝え合ったりする活動を取り入れる。
 - ・作図方法を説明し、伝え合う活動を行う際には、「どの点を中心として、どういう半径で円をかく」、「どの点と点を結ぶ」などの表現ができるように指導する。
 - ・定規は2点を通る直線をひく道具として、コンパスは円をかいたり長さを写し取ったりする道具として使うことを確認する。
- ④ 文字式の四則計算や分配法則を用いる計算ができるようにするために
 - ・文字式のきまりを用いるだけでなく、 $a \div x \Rightarrow a/x$ を $a/x \Rightarrow a \div x$ と見たり、 $x - \frac{y}{3}$ と、 $\frac{x-y}{3}$ の違いを説明したりする活動を取り入れる。
 - ・分配法則を用いる計算においては、何を何に分配するのかを図を使って確かめたり、小数や分数でも成り立つことを確かめたりする活動を取り入れる。
 - ・計算練習をさせるだけでなく、計算の意味や式の意味が理解できるように指導する。
 - ・「正負の数」において、具体的な事象を取り上げて指導し、演算記号の+（たす）・-（ひく）と符号の+（プラス）・-（マイナス）の違いを区別できるようにするとともに、正の数・負の数を用いることのよさを確認しておくことも文字式の計算の指導の基となる。
- ⑤ x と y の反比例の関係を表す表から式を求めることができるようにするために
 - ・反比例の関係を表す表を縦にみて、対応する x と y の積が一定であることを見付けて式に表したり、 $x=1$ のときの y の値が比例定数になることを式やグラフから確認したりする指導する。
 - ・日常的な事象における2つの数量の関係をとり上げ、表、式、グラフを相互に関連付けて指導する。
- ⑥ 方程式を解くことができるようにするために
 - ・解を求める練習を繰り返すだけでなく、求めた解を文字に代入して、答えを確かめる活動を取り入れる。
 - ・解の意味を理解させるため、「方程式を解く」とはということなのかを、既習内容である一元一次方程式と関連付け、学び直しの機会を設ける。

【小問別の問題内容と正答率(中学校 数学)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	全国値	無答率
					考	技	知								
1	1		(1)	短答	◎			数と式	式の計算	2乗を含む文字式の加法・減法の計算ができる。	中学2年A(1)ア	73.7	78.0	5.0	
2			(2)	短答	◎					文字式の乗法の計算ができる。		▼ 53.9	63.4	9.3	
3			(3)	短答	◎					文字式の乗法と除法の混じった計算ができる。		▼ 47.7	55.8	13.5	
4			(4)	短答	◎					分配法則を用いる文字式の計算ができる。		▼ 63.6	73.2	6.7	
5			(5)	選択	◎					x, yの1次式の等式を, xについて解くことができる。		64.0	67.4	1.6	
6			(6)	選択	◎					x, yを含む式の値を求めることができる。		71.3	75.8	1.1	
7	2			選択	○	◎		方程式・連立方程式	与えられた2元1次方程式の解を選択することができる。	中学2年A(2)ア	▼ 50.9	57.3	3.2		
8	3	(1)	選択	◎			連立方程式を加減法で解くことができる。		76.3	79.1	1.0				
9		(2)	選択	◎			連立方程式を代入法で解くことができる。		▼ 70.7	78.2	2.9				
10	4	(1)	選択	◎		○	思		方程式の問題を成り立たせるために必要な条件がわかる。	中学1年A(3)ウ	69.2	67.4	1.1		
11		(2)	選択	◎	○		思		文章題から, それを解く正しい方程式を導くことができる。	38.4	37.0	2.7			
12	5			選択	◎		○		思	文章題とそれを解く連立方程式から, 文字xが何を表しているかを選択することができる。	中学2年A(2)ウ	83.3	86.2	0.7	
13	6	(1)	選択	◎	○		関数	比例・反比例	比例の関係にある1組のx, yの値から, 与えられたxの値に対応するyの値を求めることができる。	中学1年C(1)エ	61.6	61.6	1.9		
14		(2)	選択	◎	○				x, yの反比例の関係を表す表から, 反比例の式を求めることができる。	▼ 52.9	59.0	1.8			
15	7	(1)	選択		◎		1次関数	与えられた1次関数の傾きと切片を求めることができる。	中学2年C(1)イ	87.1	86.0	0.8			
16		(2)	短答	◎	○			1次関数の式から, そのグラフをかくことができる。	△ 75.5	70.5	5.6				
17	8	(1)	選択	◎	○		1次関数	傾きとグラフ上の点の座標から, その1次関数の式を求めることができる。	中学2年C(1)イ	▼ 45.5	55.6	2.1			
18		(2)	選択	◎	○			2組のx, yの値から, その1次関数の式を求めることができる。	61.0	66.0	4.1				
19	9			選択	◎	○	図形	平面図形・空間図形	2つの図形の位置関係からどのように移動させたのかがわかる。	中学1年B(1)イ	59.8	58.9	1.1		
20	10			記述	◎				○	表	垂線の作図方法を理解し, それを記述できる。	中学1年B(1)ア	▼ 20.0	27.5	33.4
21	11			選択		◎				空間における2直線の位置関係を理解している。	中学1年B(2)ア	▼ 51.0	56.7	2.2	
22	12			選択	◎	○				円柱の側面積を求めることができる。	中学1年B(2)ウ	73.5	78.4	2.3	
23	13			選択	◎	○				円錐の体積を求めることができる。	中学1年B(2)ウ	39.5	42.9	3.6	
24	14			選択		◎				球の体積を求める式を選択できる。	中学1年B(2)ウ	52.2	55.1	3.1	
25	15	(1)	短答		◎		資料の活用	資料の散らばりと代表値	度数分布表の階級の幅について理解している。	中学1年D(1)	67.6	72.0	6.6		
26		(2)	選択	◎	○				度数分布表から相対度数を求めることができる。	52.9	52.5	2.8			
27	16	(1)	短答		◎				ヒストグラムから, 階級の度数を読み取ることができる。	中学1年D(1)ア	89.7	86.9	3.7		
28		(2)	選択	○	◎				与えられたヒストグラムについて, 正しい内容を選択することができる。	▼ 64.9	77.8	3.1			
29	17			短答		◎				最頻値の意味を理解している。	中学1年D(1)ア	▼ 30.7	42.4	33.6	
30	18	(1)	①	選択	○	◎				思	問題文を読み取り, xとyが何を表しているのかがわかる。	中学1年C(1)オ	50.4	49.6	4.2
31			②	選択	◎		○	思	問題で示された考え方が, 比例の考えを利用していることがわかる。	▼ 50.0	56.1		4.8		
32			(2)	記述	◎		○	表	比例の考えを利用し, 問題を解決するための方法を説明することができる。	▼ 37.0	47.7		6.9		

※「県平均正答率」において、網掛けは全国値を5ポイント以上上回ったもの。▼は全国値を5ポイント以下下回ったもの。
 ※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの全国学力・学習状況調査において課題となっている問題

(7) 中学校第2学年英語の調査結果と指導改善の対策

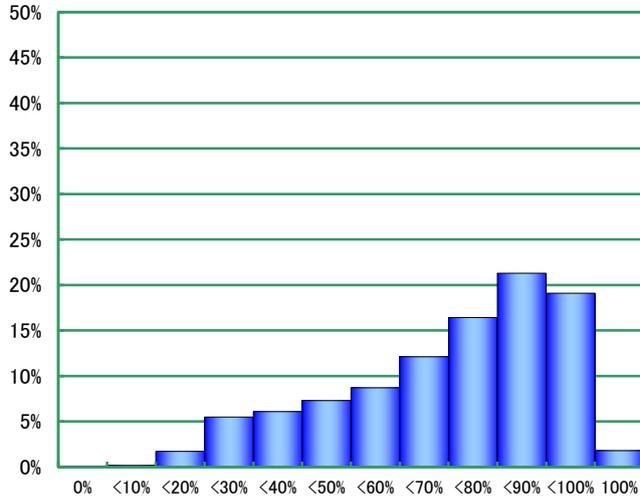
○ 「聞くこと」は概ね身に付いているが、「書くこと」に課題がある。

- ・「基礎・基本」及び「思考力・判断力・表現力」とともに、5ポイント以上の有意差は見られなかった。
- ・領域別に見ると、「聞くこと」は全国値を上回っており概ね身に付いているものの、「書くこと」については、全国値を下回っており課題が見られる。

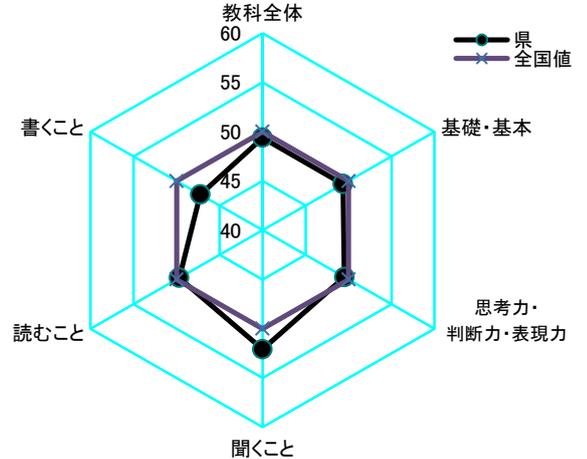
〈区分別平均正答率〉

分類	区分	県	全国値
全体・基礎・活用	教科全体	69.3	70.7
	基礎・基本	73.8	75.3
	思考力・判断力・表現力	53.9	55.3
領域	聞くこと	76.2	71.9
	読むこと	70.9	71.7
	書くこと	▼ 60.0	68.1

〈正答率度数分布〉



〈区分別平均正答率の比較〉



※各区分の値は、全国値を50とした場合の標準スコアを表します。

〈問題の内容別平均正答率〉

英語	教科の正答率	リスニング(絵を見て答える)	リスニング(対話文の応答)	リスニング(メモの完成)	長文の読み取り	会話文の読み取り	文法・慣用表現の知識・理解	単語の並べかえによる英作文	条件英作文	自由英作文
県	69.3	90.7	63.6	58.8	62.2	74.2	75.9	▼61.7	▼48.2	▼69.4
全国値	70.7	88.9	58.9	49.1	66.8	76.1	72.9	72.7	54.5	75.5

☆ 課題と指導改善の方策

- これまでの宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査において課題となっている問題
 - ① 「読むこと」の領域の「長文の読み取り」における「長文の内容（指示語の内容）の把握」については、全国値を5ポイント以上下回っており、依然として課題が見られる。
 - ② 「書くこと」の領域の「自由英作文」については、全国値を5ポイント以上下回っており、依然として課題が見られる。
- 課題
 - ③ 「書くこと」の領域の「単語の並べかえによる英作文」については、全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。
 - ④ 「書くこと」の領域の「条件英作文」については、全国値を5ポイント以上下回っており、課題が見られる。

○ 指導改善の対策

- ① 長文の内容（指示語の内容）を確実に把握するために
 - ・ 普段の長文を扱う授業では、まず内容の概要を把握できるようにし（指導の流れの例ア～ウ）、次にその中から必要な情報を正確に読み取ることができるようにする（指導の流れの例エ）。一語一語の意味や一文一文の解釈にのみとらわれないようにする。
〈指導の流れの例〉
 - ア 教師のオーラル・イントロダクションによる概要把握
 - イ その確認のT or F
 - ウ 黙読による確認
 - エ 英語によるQ and A
 - ・ 教科書以外に、生徒にとって身近な話題や関心の高い内容など英語の文章に触れる機会を意図的に設定し、長文を読むことに慣れ親しませ、読もうとする意欲につなげる。
- ② 与えられたテーマに従って、まとまりのある英文を書くために
 - ・ 生徒の学習段階や興味・関心に合わせ、適切なテーマを設定し、書く活動に取り組みさせることで、まとまりのある文章を書くことができるようにする。
 - ・ 教科書との関連を図り、モデルとなる文や表現の幅を広げる語彙を活用しながら段階を踏んで書くことができるようにする。
- ③ 単語を並べかえ、正しい語順で書くために
 - ・ 語順や修飾関係など英語と日本語の違いについて触れながら、文の意味や機能について理解させる。
 - ・ 音声と文字を関連付け、発音と綴りの関係に気付かせる指導を大切にする。また、単語や文を正しく書くことができるよう家庭学習との関連を図りながら、確実に定着するよう指導を継続する。
- ④ 与えられた条件で英文を書くために
 - ・ 言語材料を指導する際、意味の確認にのみ終始することなく、言語の使用場面や働きについて十分に理解させる。また、人称の違いや時制の変化についての理解を十分にすることで基本的な語彙や文構造を活用する力を身に付けさせ、条件に応じた文を書くことができるようにする。

【小問別の問題内容と正答率(中学校 英語)】

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	領域	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領	県正答率	全国値	無答率
					表	理	知								
1	1		(1)	選択	◎			聞くこと	リスニング (絵を見て答える)	キーワード(時刻)を聞き取ることができる。	ア(ア), (イ)	96.0	94.2	0.2	
2			(2)	選択	◎					キーワード(場所)を聞き取ることができる。		85.6	82.3	0.3	
3			(3)	選択	◎					キーワード(兄弟姉妹)を聞き取ることができる。		85.4	86.4	0.2	
4			(4)	選択	◎					キーワード(月日)を聞き取ることができる。		93.2	92.0	0.2	
5			(5)	選択	◎					キーワード(天気と時間帯)を聞き取ることができる。		93.3	89.6	0.3	
6	2		(1)	選択	◎			リスニング (対話文の応答)	対話の内容(自転車が新しいか)を聞き取り, 適切に応答することができる。	ア(ア), (ウ)	85.4	83.9	0.3		
7			(2)	選択	◎				対話の内容(いつ大阪へ行ったか)を聞き取り, 適切に応答することができる。		36.9	32.6	0.6		
8			(3)	選択	◎				対話の内容(彼はだれか)を聞き取り, 適切に応答することができる。		68.4	60.1	0.5		
9	3		(1)	短答	◎		思	リスニング (メモの完成)	自己紹介を聞き取り, 要点(毎日すること)を書きとめることができる。	ア(ア), (オ)	42.8	27.4	11.9		
10			(2)	短答	◎		思		自己紹介を聞き取り, 要点(ギターをひく曜日)を書きとめることができる。		74.8	70.7	1.9		
11	4		①	選択	◎			長文の読み取り	長文の内容(絵里について)を把握することができる。	ウ(ウ)	▼ 71.4	76.5	0.3		
12			②	選択	◎				長文の内容(アンについて)を把握することができる。		▼ 60.2	67.0	0.4		
13			③	選択	◎				長文の内容(指示語の内容)を把握することができる。		▼ 72.9	78.4	1.0		
14			④	選択	◎				長文の内容(アンの母親について)を把握することができる。		77.9	82.6	1.2		
15			(2)	記述	○◎				表		長文の内容を把握し, 質問文に答えることができる。	ウ(ウ) エ(ア), (イ)	28.8	29.3	15.4
16	5		(1)	選択	◎			会話文の読み取り	会話の内容(ビルが陽子にたずねたこと)を把握することができる。	ウ(ウ)	64.8	69.2	0.4		
17			(2)	選択	◎				会話の内容(冬についての陽子の気持ち)を把握することができる。		▼ 84.7	90.2	0.5		
18			(3)	選択	◎				会話の流れを把握し, 会話文を完成させることができる。		72.7	68.2	0.7		
19			(4)	選択	◎				会話の内容(次の夏に海へ行く人物)を把握することができる。		74.6	76.6	1.5		
20			(5)	記述	◎				表		条件英作文 会話に参加したつもりで, 自分の考えを書き表すことができる。	エ(ア), (イ)	79.0	83.2	8.8
21	6		(1)	選択	○◎			文法・慣用表現の知識・理解	慣用表現(Nice to meet you, too.)が理解できる。	ウ(ウ)	89.4	91.5	0.5		
22			(2)	選択	○◎				人物についてたずねる文に対する答え方が理解できる。		59.6	62.7	0.6		
23			(3)	選択	○◎				所有者をたずねる表現が理解できる。		75.6	78.1	0.6		
24			(4)	選択	○◎				時刻をたずねる表現が理解できる。		77.5	72.9	0.7		
25			(5)	選択	○◎				慣用表現(Here you are.)が理解できる。		85.2	68.9	0.7		
26			(6)	選択	○◎				時期をたずねる表現が理解できる。		68.1	63.1	0.8		
27	7		(1)	短答	○◎			単語の並べかえによる英作文	May I ~?の文を理解し, 正しい語順で書くことができる。	エ(ア), (イ)	▼ 70.5	81.1	4.0		
28			(2)	短答	○◎				出身をたずねる文を理解し, 正しい語順で書くことができる。		66.8	68.3	3.5		
29			(3)	短答	○◎				be going to ~の否定文を理解し, 正しい語順で書くことができる。		▼ 65.4	73.1	4.2		
30			(4)	短答	○◎				How manyを使った疑問文を理解し, 正しい語順で書くことができる。		▼ 44.2	68.3	4.1		
31	8		(1)	記述	◎		表	条件英作文	一般動詞の疑問文を書くことができる。	エ(ア), (イ)	25.8	28.0	30.3		
32			(2)	記述	◎		表		否定の命令文を書くことができる。		▼ 39.9	52.2	21.3		
33	9			記述	◎			自由英作文	友達または家族の名前の紹介に続いて, その人物について紹介する文を書き表すことができる。	エ(エ)	▼ 67.8	75.0	20.0		
34				記述	◎		表				70.1	72.4	20.0		
35				記述	◎		表				▼ 70.3	79.1	20.0		

※「県平均正答率」において、網掛けは全国値を5ポイント以上上回ったもの。▼は全国値を5ポイント以上下回ったもの。

※「通し番号」及び「出題のねらい」において、網掛けはこれまでの宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査において課題となっている問題

3. 質問紙調査の結果

(1) 児童生徒質問紙調査

① 学力向上に向けた5つの提言（※資料2参照）と関連する事項

- 先生が話を聞いてくれる、良いところを認めてくれるとしている割合は、小5で8割を超えるなど、小5、中2とも肯定的な回答をした割合が高い。
- 授業のはじめに目標を示されていると思っている割合は、小5、中2とも高く、小6、中3よりも高い傾向にある。一方、授業の最後に振り返る活動をよく行っていると思っている割合は、小5、中2とも低く課題がある。
- 自分の考えをノートに書くようにしている割合は、小5で7割を超えているが、中2では5割程度と低く課題がある。
- 平日、家庭などで小5で1時間以上、中2で2時間以上勉強している割合は、小5で6割に満たず、中2では2割程度と低く課題がある。いずれも、小6、中3よりも低い傾向にある。
- 家庭学習をする上で、学習の方法が分からないという悩みをもっている割合は、中2で2割近くになっており課題がある。

※実施初年度であり経年比較ができないことから、右に平成26年度全国学力・学習状況調査における小学校6年生と中学校3年生の状況を示し、その下段には全国平均との比較を示した。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
①	先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか	69.7		65.5	
②	先生はあなたの話を聞いてくれますか	86.8		79.5	
③	先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか	81.0		75.8	
④	授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	80.5	77.5 -4.5	73.5	67.7 -3.8
⑤	授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか	66.1	68.0 -3.9	52.2	53.0 -0.3
⑥	授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか。	73.9		50.6	
7	家で学校の授業の予習をしていますか	44.2	50.2 +7.0	36.8	46.7 +12.5
8	家で学校の授業の復習をしていますか	57.9	66.1 +12.1	50.6	63.0 +12.6
9	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師含む、小学校：1時間以上、中学校：2時間以上）	56.8	64.1 +2.1	22.1	29.6 -5.5
10	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師含む、小学校：2時間以上、中学校：3時間以上）	21.8	22.0 -2.0	13.1	15.6 -1.3

質問事項		1	2	3	4	5	6	7	
11	家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを1つ選んでください。	家庭学習の方法が分からない	家庭学習に集中できない	学習の計画を立てても長続きしない	家庭学習と部活動の両立が難しい	家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない	特に悩みはない	その他	無回答
	小5 (%)	4.2	11.6	13.0		7.3	58.7	4.9	0.4
	中2 (%)	15.4	19.4	18.0	14.7	11.3	19.1	2.1	0.1

◇ 学力向上に向けた5つの提言と関連する事項と教科の平均正答率のクロス集計

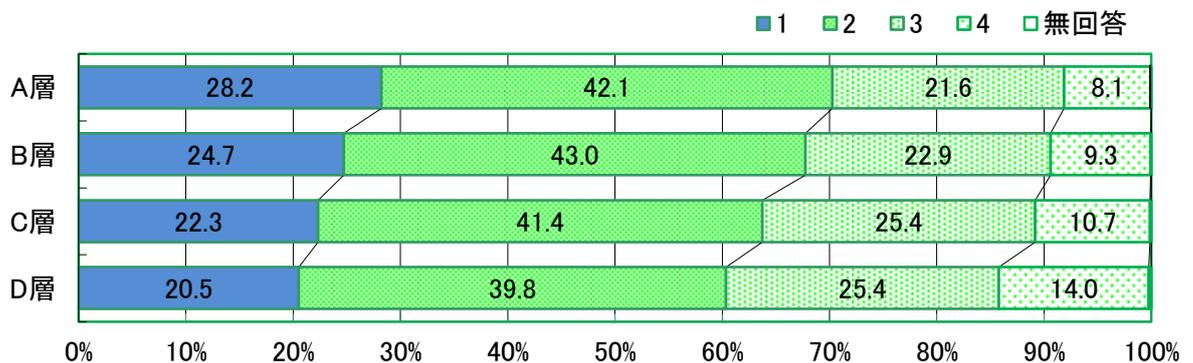
※一部の項目を掲載

- 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

- ① 「先生から声を掛けられたり、励まされたりしていますか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）

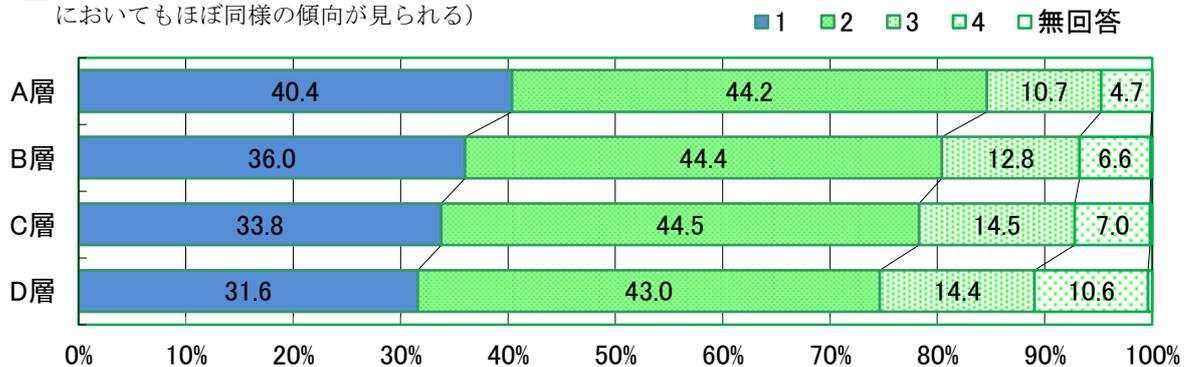
〈選択肢〉 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



- 「先生が話を聞いてくれる」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

- ② 「先生はあなたの話を聞いてくれますか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）

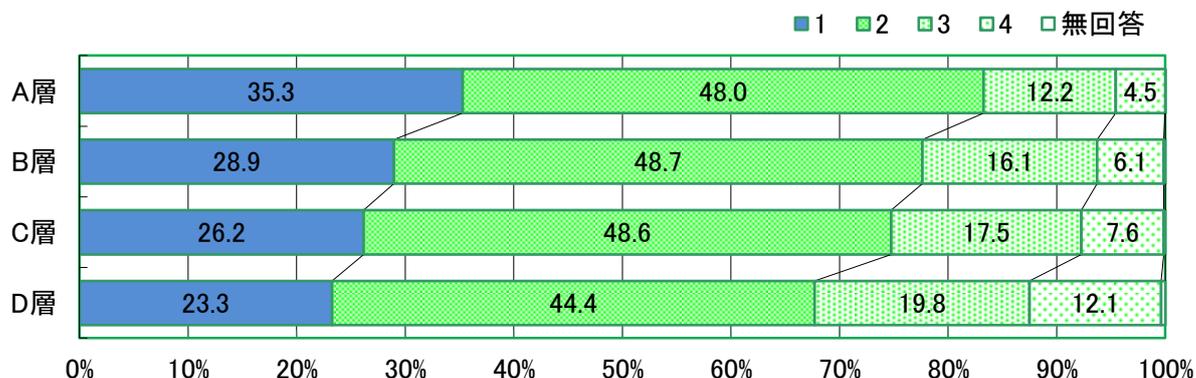


- 「先生が、良いところを認めてくれている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

③ 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）

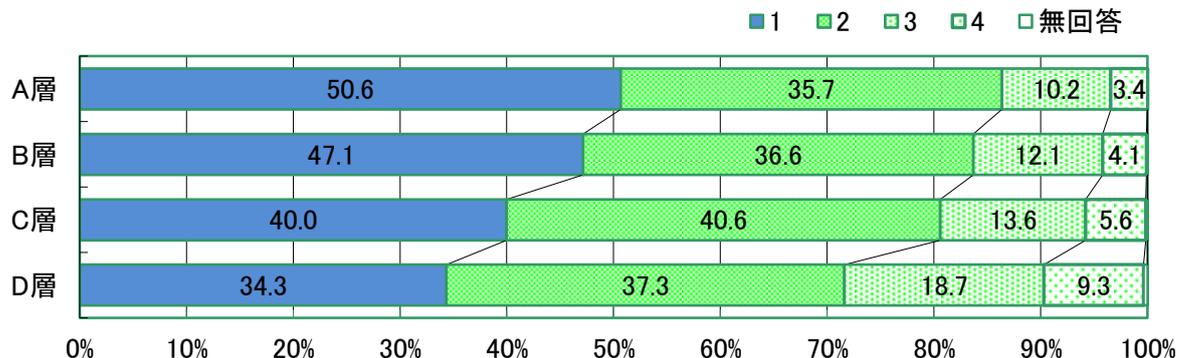
〈選択肢〉 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



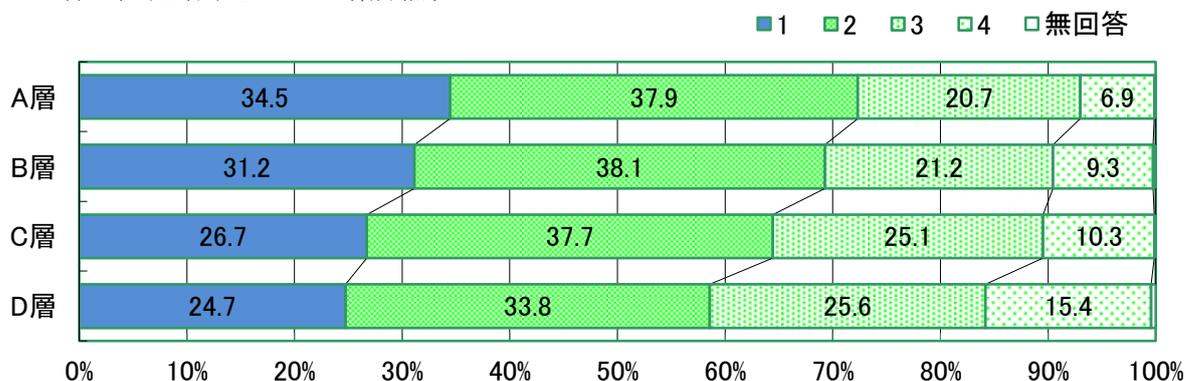
- 「授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

④ 「授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様の傾向が見られる）



- 「授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われている」回答している児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

⑤ 「授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果

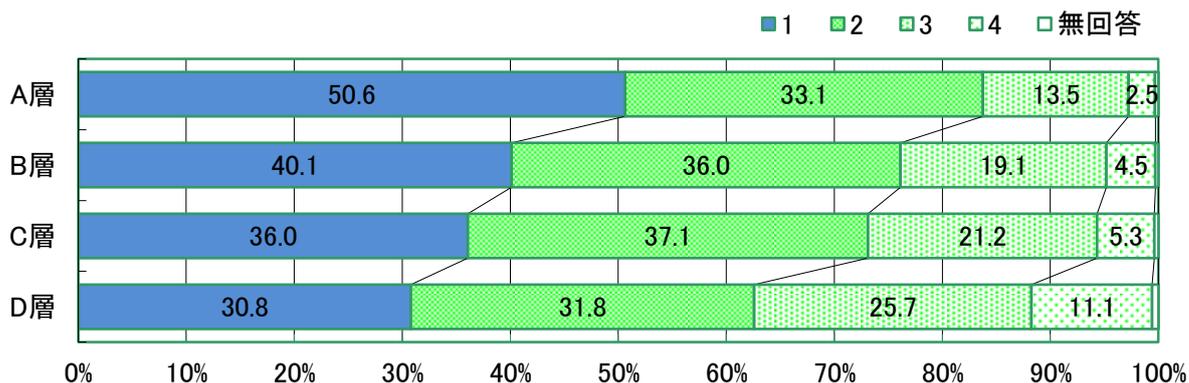


- 「授業で、自分の考えをノートに書くようにしている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

〔6〕 「授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様の傾向が見られる）

〈選択肢〉 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

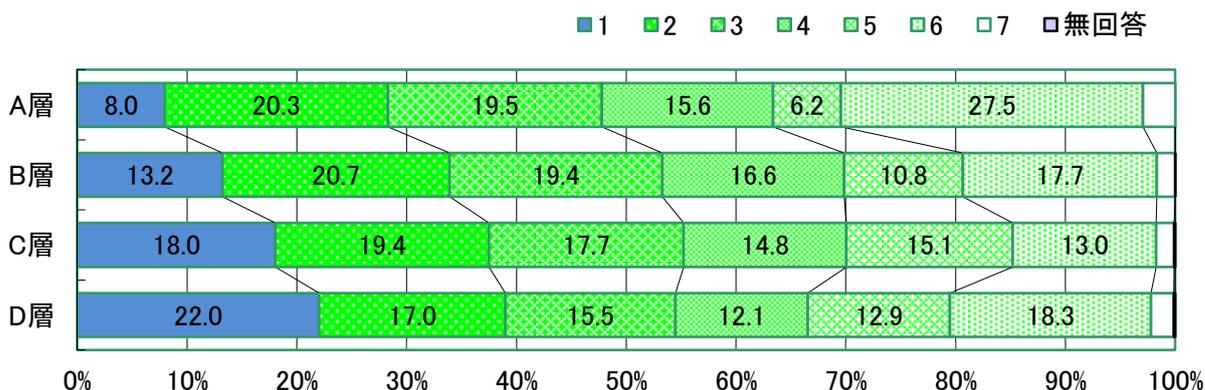
※正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



- 「家庭学習をする上で、学習の方法が分からないという悩みをもっている」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。

〔11〕 「家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを1つ選んでください。」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）

〈選択肢〉 1：家庭学習の方法が分からない 2：家庭学習に集中できない 3：学習の計画を立てても長続きしない 4：家庭学習と部活動の両立が難しい 5：家庭学習を一生懸命やっても成績が伸びない 6：特に悩みはない 7：その他



② 震災の影響

- 家庭学習がやりにくい、授業に集中できない、気持ちが落ち着かなくなるなど、震災の影響を感じている割合は、小5、中2とも1割～2割程度となっており、特に小5が高い。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
12	震災前に比べ、家庭学習がやりにくくなりましたか	18.6		13.0	
13	突然震災を思い出し、授業に集中できないときがありますか	13.6		5.4	
14	突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなる場合がありますか	17.6		11.9	

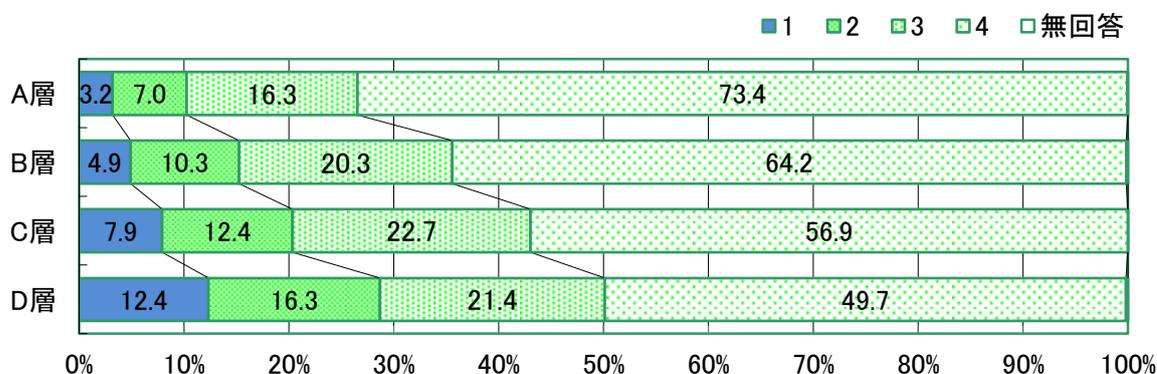
◇ 震災の影響と教科の平均正答率のクロス集計

- 「震災前に比べ、家庭学習がやりにくくなった」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。

12 「震災前に比べ、家庭学習がやりにくくなりましたか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様の傾向が見られる）

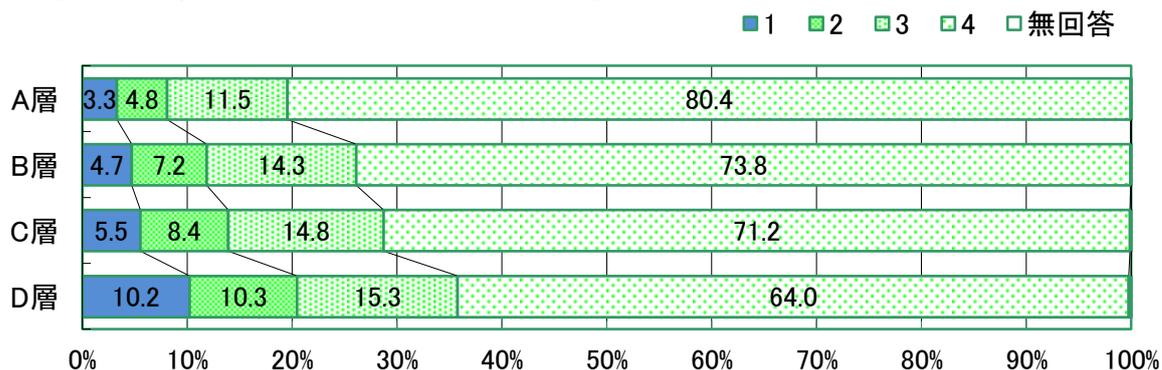
〈選択肢〉 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



- 「突然震災を思い出し、授業に集中できないときがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。

13 「突然震災を思い出し、授業に集中できないときがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計（中2においてもほぼ同様の傾向が見られる）

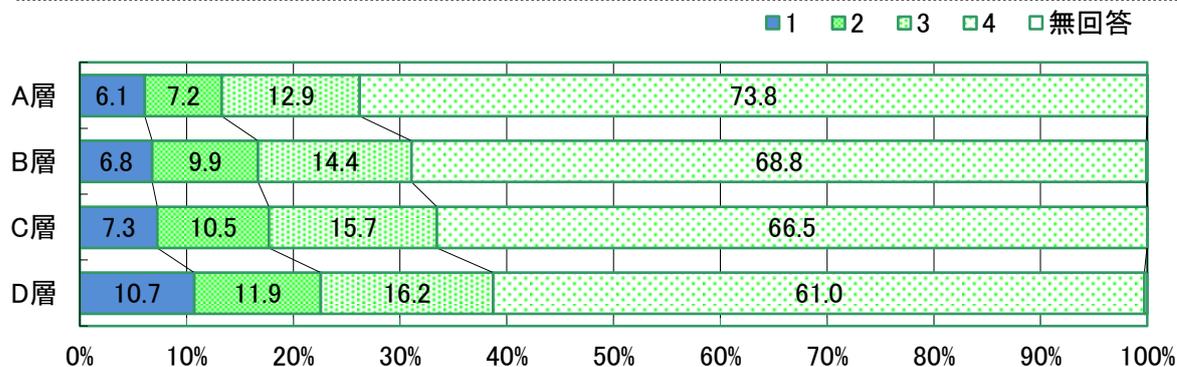


- 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が低い傾向が見られる。

14 「突然震災を思い出し、気持ちが落ち着かなくなることがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集（中2においてもほぼ同様の傾向が見られる）

選択肢） 1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない 4：当てはまらない

※正答率の高い順に、その人数を2.5%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



③ 学習の理解度

- 国語、算数・数学、英語の授業の内容がよく分かるとしている割合は、小5、中2とも7割を超え高く、特に小5の国語、算数が高い。いずれも、小6、中3よりも高い傾向にある。

※実施初年度であり経年比較ができないことから、右に平成26年度全国学力・学習状況調査における小学校6年生と中学校3年生の状況を示し、その下段には全国平均との比較を示した。

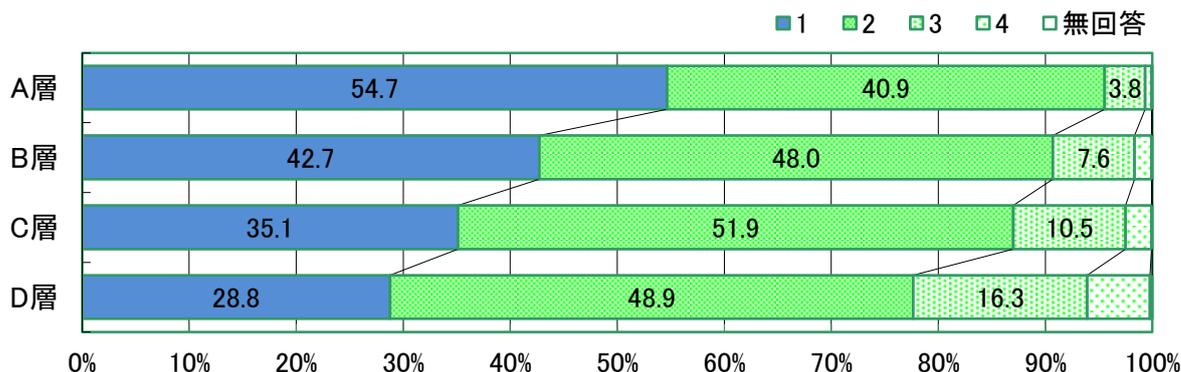
質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
15	国語の授業の内容はよく分かりますか	87.7	78.8	82.9	74.5
			-1.3		+2.5
16	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	89.0	78.2	71.8	71.4
			-1.4		-0.1
17	英語の授業の内容はよく分かりますか			72.1	

◇ 学習の理解度と教科の平均正答率のクロス集計

※一部の項目を掲載

- 「授業がよく分かる」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

15 「国語の授業の内容はよく分かりますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5における算数、中2における国語、数学及び英語においてもほぼ同様の傾向が見られる）



④ 基本的な生活習慣

- 朝食を毎日食することなど、学力向上を支える基本的な生活習慣については、小5、中2ともに肯定的な回答をした割合が高く概ね身に付いている。
- 3時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている割合は、中2で1割以上となっているとともに、LINEなどの無料通信アプリを1時間以上使っている生徒が3割を超えており課題がある。

※実施初年度であり経年比較ができないことから、右に平成26年度全国学力・学習状況調査における小学校6年生と中学校3年生の状況を示し、その下段には全国平均との比較を示した。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
18	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	79.0	81.7 +2.5	77.2	77.5 +3.4
19	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	89.3	90.9 0.0	92.3	92.9 +0.8
20	朝食を毎日食べていますか	96.5	96.8 +0.8	94.5	94.6 +1.1
21	平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見ますか →3時間以上と回答した割合	27.2	39.6 +1.6	25.4	30.3 -1.2
22	平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか →3時間以上と回答した割合	12.3	17.4 +0.4	18.0	19.8 -0.5
23	平日に、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか →3時間以上と回答した割合	3.3	4.8 -0.2	15.6	18.8 -1.0
24	平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか →1時間以上と回答した割合	5.4		31.1	

※21から24については、数値が高いほど、また、全国との比較の値が大きいほど改善の必要性が高い。

◇ 基本的な生活習慣と教科の平均正答率のクロス集計

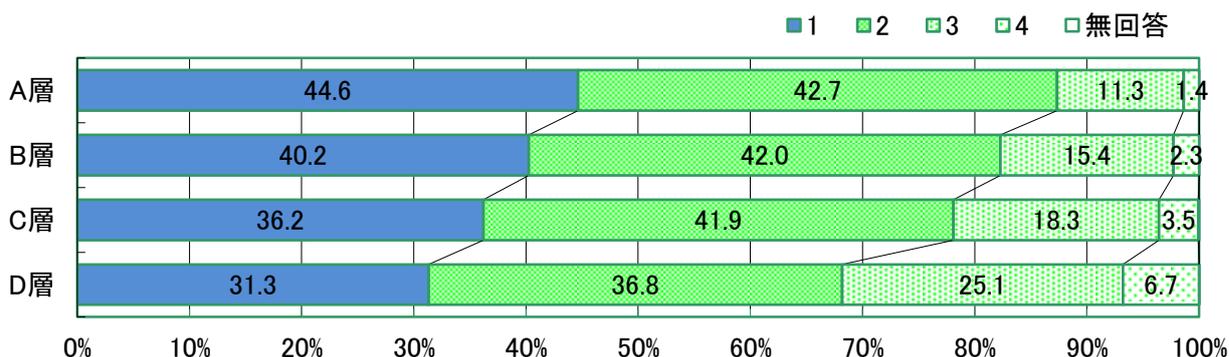
※一部の項目を掲載

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」などと回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

18 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5及び中2における就寝時刻や朝食についてもほぼ同様の傾向が見られる）

選択肢) 1: 当てはまる 2: どちらかと言えば当てはまる 3: どちらかと言えば当てはまらない 4: 当てはまらない

※正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。

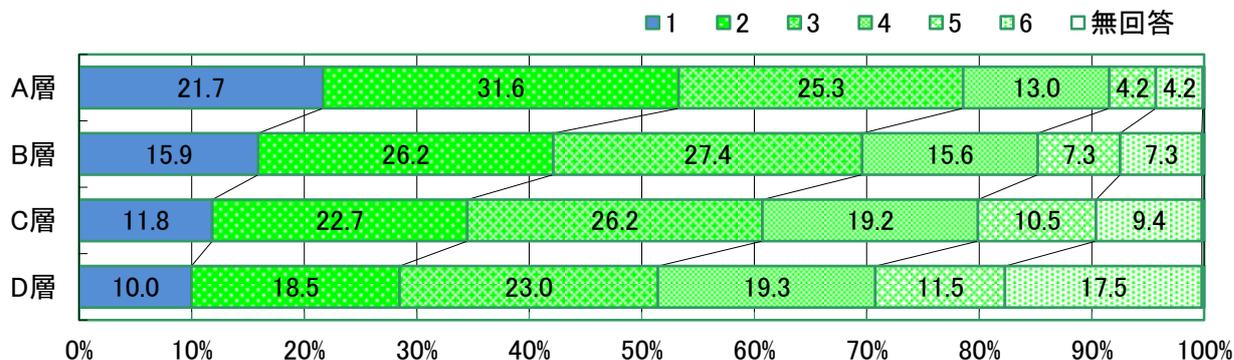


- 「平日に、テレビゲーム等をする時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

22 「平日に、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）

選択肢) 1：全くしない 2：1時間未満 3：1時間以上2時間未満 4：2時間以上3時間未満
5：3時間以上4時間未満 6：4時間以上

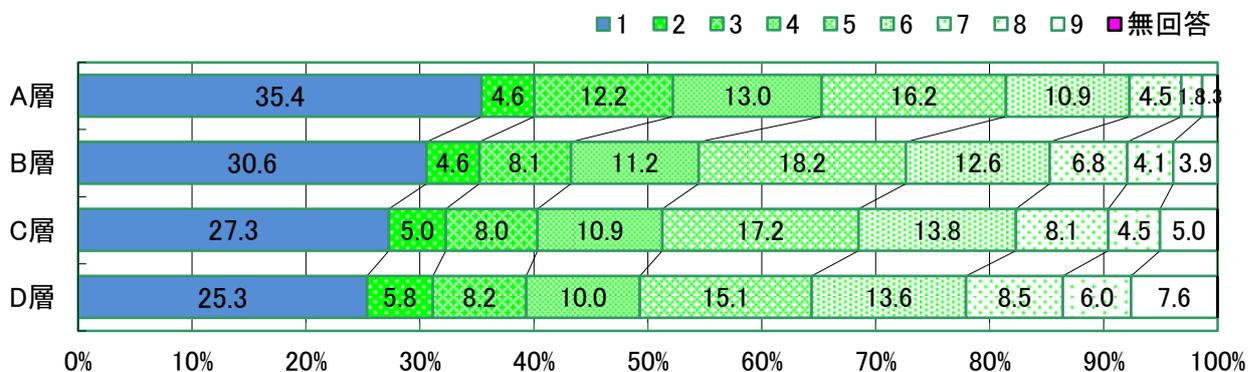
※正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています。



- 「平日に、携帯電話やスマートフォンを使う時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

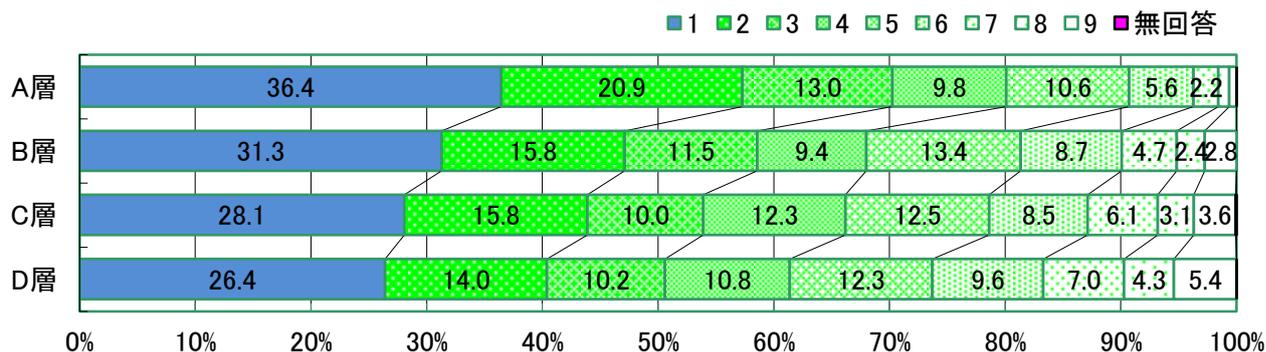
23 「平日に、携帯電話やスマートフォンを勉強以外で使う時間はどれくらいですか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）

選択肢) 1：携帯電話を持っていない 2：全く使わない 3：30分未満 4：30分以上1時間未満
5：1時間以上2時間未満 6：2時間以上3時間未満 7：3時間以上4時間未満
8：4時間以上5時間未満 9：5時間以上



- 「平日に、LINEなどの無料通信アプリを使う時間が短い」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

24 「平日に、携帯電話やスマートフォンでLINEなどの無料通信アプリをどのくらい使っていますか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）



⑤ 自尊意識・規範意識

- 自分にはよいところがあると思っている割合は、小5で7割程度、中2では6割程度である。いずれも、小6、中3よりも低い傾向にある。
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているとしている割合は、小5で8割程度、中2では7割程度である。いずれも、小6、中3よりも高い傾向にある。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている割合は、小5、中2ともに9割以上である。いずれも、小6、中3と同程度である。

※実施初年度であり経年比較ができないことから、右に平成26年度全国学力・学習状況調査における小学校6年生と中学校3年生の状況を示し、その下段には全国平均との比較を示した。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
25	自分には、よいところがあると思いますか	72.7	74.0 -2.1	63.0	65.3 -1.8
26	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	93.7	93.8 -0.6	93.6	94.2 +0.3
27	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	79.9	73.8 -1.3	70.8	67.0 -1.0
28	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	92.4	92.3 -1.7	92.5	92.8 -1.2
29	将来の夢や目標を持っていますか	90.2	86.6 -0.1	72.6	72.5 +1.1
30	学校のきまり（規則）を守っていますか	89.2	89.9 -0.6	92.2	92.5 -0.5
31	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.7	95.7 -0.7	93.3	92.5 -0.9

◇ 自尊意識・規範意識と教科の平均正答率のクロス集計

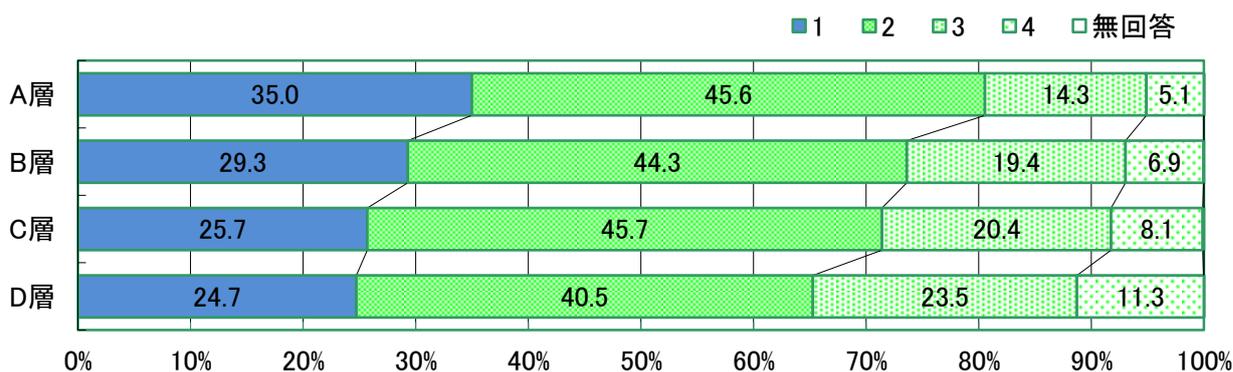
※一部の項目を掲載

- 「自分には、よいところがあると思う」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

25 「自分には、よいところがあると思いますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果(中2においてもほぼ同様の傾向が見られる)

選択肢) 1: 当てはまる 2: どちらかと言えば当てはまる 3: どちらかと言えば当てはまらない 4: 当てはまらない

※正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています

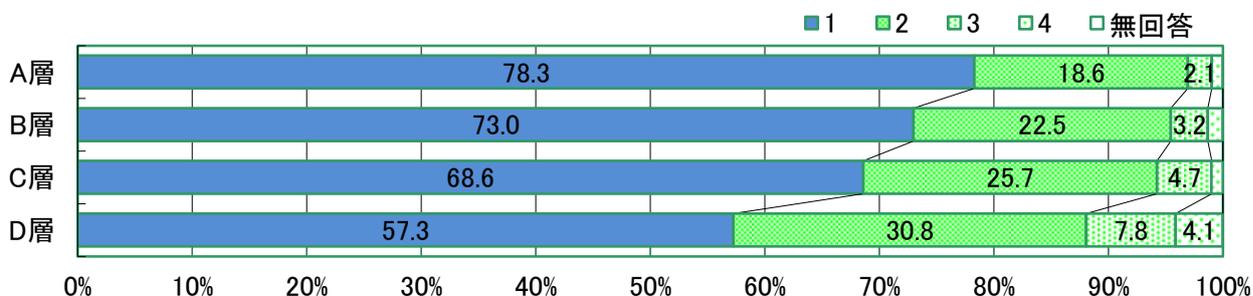


- 「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

26 「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様の傾向が見られる）

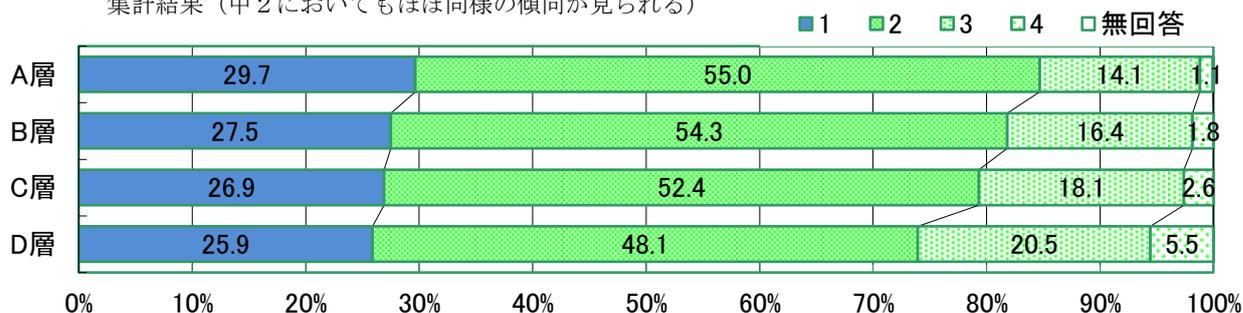
選択肢）1：当てはまる 2：どちらかと言えば当てはまる 3：どちらかと言えば当てはまらない
4：当てはまらない

※正答率の高い順に、その人数を25%刻みで4つの層に分けています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層としています



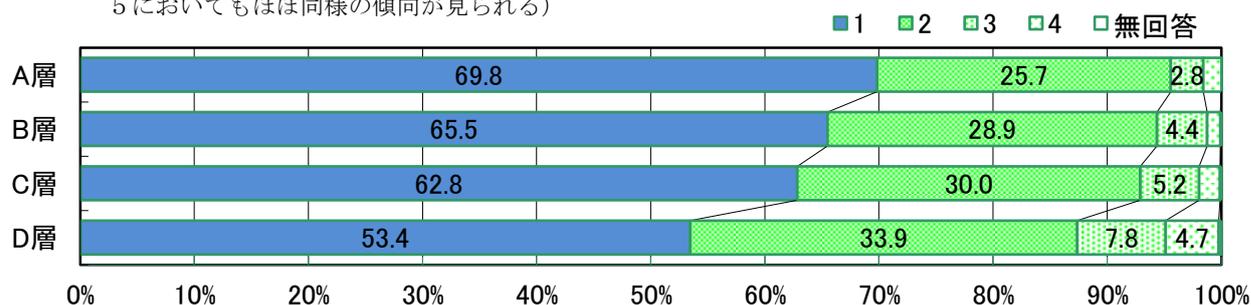
- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

27 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」と小5における教科の平均正答率とのクロス集計結果（中2においてもほぼ同様の傾向が見られる）



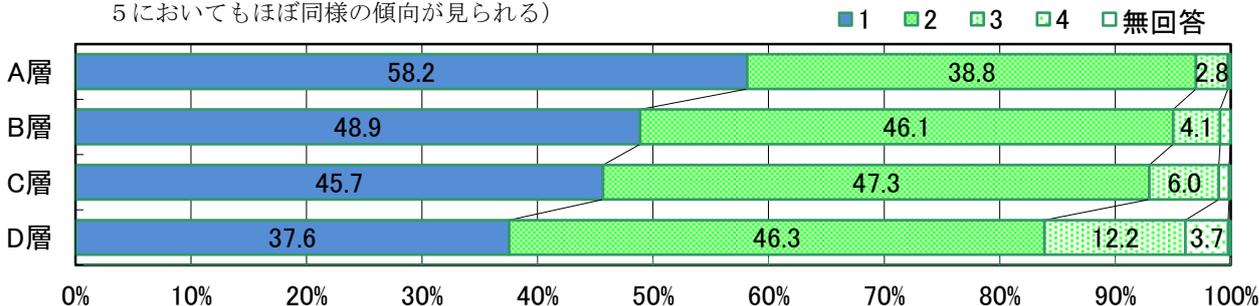
- 「人の役に立つ人間になりたいと思っている」と回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

28 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）



- 「学校のきまり（規則）を守っている」と回答している児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

30 「学校のきまり（規則）を守っていますか」と中2における教科の平均正答率とのクロス集計結果（小5においてもほぼ同様の傾向が見られる）



(2) 学校質問紙調査

① 学力向上に向けた5つの提言と関連する事項

- 児童生徒に積極的に声を掛け、話をよく聴いている学校の割合は高いが、よい点や可能性を見付け、積極的に評価している学校の割合は、小5、中2ともに小6、中3よりはやや低い傾向にある。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている学校の割合は、小5で中ともに9割に達しておらず、特に中2で8割程度と低い。小5、中2ともに小6、中3よりは低い傾向にある。
- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っている学校の割合は、中2で7割に達しておらず課題が見られる。
- 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている学校の割合は、小5、中2ともに高いが、小5は小6よりやや低い傾向にある。

※実施初年度であり経年比較ができないことから、右に平成26年度全国学力・学習状況調査における小学校6年生と中学校3年生の状況を示し、その下段には全国平均との比較を示した。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
1	児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか。	98.9		97.2	
2	児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか。	96.0		97.9	
3	学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか	95.6	96.2 -0.7	92.3	97.5 +1.0
4	授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れましたか	95.6	95.2 -1.7	95.1	94.1 +0.1
5	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	85.0	91.6 0.0	79.0	91.6 +2.4
6	自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	87.9	91.9 +1.3	87.4	90.1 +3.6
7	国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	99.6	99.8 +0.4	90.9	85.6 -5.3
8	家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(各教科共通)	91.6	93.6 +8.2	67.8	76.2 -0.7
9	家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか(各教科共通)	91.6	95.4 +7.2	93.0	91.1 +6.3
10	保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしましたか(各教科共通)	96.7	98.8 +2.9	93.7	90.1 +4.7

② 震災の影響

- 震災前に比べ、児童生徒の家庭学習の時間の確保が難しくなった、授業に集中して取り組めない児童生徒が多くなったとしている学校の割合は、小5、中2とも1割～2割程度となっており、特に中2が高い。
- 震災の影響（地震・津波・放射線）と思われる、気になる様子が見られる児童生徒の割合は、小5、中2とも低い。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
11	震災前に比べ、あなたの学校では児童生徒の家庭学習の時間の確保が難しくなったと思いますか	11.7		21.0	
12	震災後、あなたの学校では授業に集中して取り組めない児童生徒が多くなったと思いますか	12.1		14.7	
13	震災の影響（地震・津波・放射線）と思われる、気になる様子が見られる児童生徒の割合	0.7		0.5	

質問事項 13 の結果を得た質問の内容

「現在、震災の影響（地震・津波・放射線）と思われる、以下のような気になる様子が一つでもある児童生徒は何人いますか。」

- ① 災害のことを突然思い出して動揺する。
- ② 災害を連想させる事柄や場面に出会うと、あわてて話題を変えたり、その場から立ち去ろうとする。
- ③ 喜怒哀楽がなくなり、無表情になった。
- ④ 些細な音でビクッとしたり、過敏に警戒するようになった。

③ 指導方法

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小5、中2とも高く、特に中2が9割を超え高い。小6、中3よりはやや低い傾向にある。
- 算数、数学の指導において、補充的な学習の指導及び発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は、小5で5割程度、中2で2～3割程度と低い。特に補充的な学習では、小6、中3よりもかなり低くなっている。

※実施初年度であり経年比較ができないことから、右に平成 26 年度全国学力・学習状況調査における小学校6年生と中学校3年生の状況を示し、その下段には全国平均との比較を示した。

質問事項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5年生	6年生	2年生	3年生
14	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行ったか	89.4	93.2 +2.6	97.2	96.5 +2.9
15	国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか	78.4	82.5 -0.7	82.5	84.7 -1.4
16	国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	85.3	88.9 +0.7	89.5	87.6 +6.1
17	算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行ったか	54.6	89.8 +0.3	31.5	88.1 +0.5
18	算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行ったか	52.0	54.4 -3.9	24.5	59.4 -1.9

※実施初年度であり経年比較ができないことから、右に平成 26 年度全国学力・学習状況調査における小学校 6 年生と中学校 3 年生の状況を示し、その下段には全国平均との比較を示した。

質 問 事 項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5 年生	6 年生	2 年生	3 年生
19	算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	75.1	66.8 +0.6	68.5	66.3 +5.5
20	算数・数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	98.5	96.4 -1.0	97.2	97.5 +1.7
21	英語の指導として、補充的な学習の指導を行ったか			22.4	
22	英語の指導として、発展的な学習の指導を行ったか			20.3	
23	英語の授業において、英単語等の反復練習などをする指導を行い、基礎・基本を習得できるようにしましたか			94.4	
24	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行ったか	83.9	86.6 +14.6	94.4	96.0 +1.8

④ 学力向上に向けた取組

- 学校図書館を活用した授業を計画的に行っている学校の割合は、小 5、中 2 とも高く、特に小 5 が 9 割を超え高い。小 6、中 3 より高い傾向にある。

質 問 事 項		小学校 (%)		中学校 (%)	
		5 年生	6 年生	2 年生	3 年生
25	学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか	96.7	80.1 -0.4	72.0	33.1 -9.1
26	放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	80.6	76.4 +14.1	86.0	88.5 +1.7
27	長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	63.4	62.1 -4.0	75.5	74.3 -10.0

(3) 児童生徒質問紙調査結果と学校質問紙調査結果の乖離

- 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましている学校の割合は10割に近いが、先生から声を掛けられたり、励まされたりしていると回答している児童生徒の割合は、小5、中2ともに7割程度であり、3割程度の乖離がある。
- 目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動や授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている学校の割合は8割から9割程度あるが、授業のはじめに先生から目標(めあて・ねらい)が示されている及び授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると回答している児童生徒の割合は、5割から8割程度であり、2割程度の乖離がある。

※質問事項の上段には児童生徒質問紙、下段には学校質問紙の質問内容を示した。

No.	質問事項	小学校			中学校		
		小5	学校	乖離	中2	学校	乖離
1	・先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか ・児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか	69.7	98.9	-29.2	65.5	97.2	-31.7
2	・先生はあなたの話を聞いてくれますか ・児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか	86.8	96.0	-9.2	79.5	97.9	-18.4
3	・先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか ・学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか	81.0	95.6	-14.6	75.8	92.3	-16.5
4	・授業のはじめに先生から目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか ・授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れましたか	80.5	95.6	-15.1	73.5	95.1	-21.6
5	・授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか ・授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	66.1	85.0	-18.9	52.2	79.0	-26.8
6	・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか ・国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか	71.3	89.4	-18.1	66.1	97.2	-31.1
7	・算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか ・算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	67.7	75.1	-7.4	40.7	68.5	-27.8
8	・家庭学習をする上で悩んでいることはありますか。最も近いものを選んでください(括弧内に示した「家庭学習の方法が分からない」を選択した児童生徒を除く割合) ・家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	95.8 (4.2)	91.6	+4.2	84.6 (15.4)	93.0	-8.4
9	・将来の夢や目標を持っていますか ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか	90.2	83.9	+6.3	72.6	94.4	-21.8

4 今後の対応

- 基礎・基本の問題の正答率が小5・中2ともに、全ての教科で全国値を下回っていることから、基礎・基本を確実に定着させる必要がある。そのためには、学力向上に向けての基本となる「5つの提言」に示した「子供へ声を掛ける」や「子供を認める」などの学習意欲を高める工夫や指導計画の工夫、少人数指導、ティーム・ティーチングなどの指導体制の工夫など、子供一人一人に応じた指導を充実させていく。(資料1参照)
- 小5、中2の国語の「書くこと」の領域や中2の英語の「書くこと」の領域等に課題が見られることから、授業への「書くこと」の積極的な導入やノート指導の工夫など、「書く力」を高めるための指導を充実させていく。(資料1参照)
- 算数・数学については基礎・基本の問題全てにおいて全国値を下回り、数学においては、全ての領域で全国値を下回ったことから、算数・数学の指導の改善を図る必要がある。そこで学識経験者や小・中学校長会代表、PTA連合会代表等を委員とした宮城県学力向上対策協議会を設置し、教育施策の在り方や効果的な指導法等について協議し、実効性のある対応方策を取りまとめる。
- 「5つの提言」については、小5・中2ともに、提言の3つ目に掲げている「授業の最後に振り返る活動」等に課題が見られたことから、指導主事の学校訪問の機会をとらえて全ての学校でさらに徹底するよう働き掛けていく。また、今年度の全国学力・学習状況調査検証改善委員会報告書に示した「授業づくりスタンダード」も併せて徹底を図っていく。
- 小5や中2で補充的な学習の指導及び発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合が低い傾向にあり、学習内容の定着に向けて、全学年で個々の理解度に応じた指導の充実を図っていくよう各学校へ促していく。
- 震災の影響を感じていると回答している児童生徒が2割程度もいることから、目には見えなくとも多くの児童生徒が困難をかかえながら学校生活を送っている、ということを改めて認識し、子供の心のケアに努め、家庭学習を含め、落ち着いて学習ができるよう学習環境の整備をより一層進めていく。
- 中2で、LINEなどの無料通信アプリを1時間以上使っている生徒が3割を超えており、学力への影響も見られることから、県教育委員会を中心とするワーキンググループを設置し、長時間化している中高生のスマートフォン等の使用実態や課題の洗い出しを進め、生徒に適切なスマートフォン等の利用を促す対応策をまとめる。
- 本報告書で示された各教科における具体的な対策や全国学力・学習状況調査検証改善委員会報告書等をもとに、全国学力・学習状況調査の分析結果と連動させながら、各学校が検証改善サイクルを確立していけるよう促していく。
- 今後とも、市町村教育委員会と連携して、学力向上に向けたこれらの取組を着実に進めていく。

《平成26年度宮城県学力・学習状況調査検証改善委員》

吉村 敏之(宮城教育大学教職大学院 教授)『座長』
中畑裕美子(大河原教育事務所 主幹)
岩間 達雄(仙台教育事務所 次長)
後藤 あい(北部教育事務所 主幹)
石田 隆幸(栗原地域事務所 主任主査)
佐々木智美(東部教育事務所 次長)
佐藤美紀子(登米地域事務所 主幹)
佐々木貴子(南三陸教育事務所 次長)
稲辺 正浩(総合教育センター 主幹)
桂島 晃(義務教育課 課長)
岩間 孝一(義務教育課 副参事)
千葉 睦子(義務教育課 課長補佐)
太田 文子(義務教育課 課長補佐)
鎌田 鉄朗(義務教育課 課長補佐)

基礎・基本の確実な定着を図るために

本調査では、「基礎・基本」については、5ポイントの有意差は見られなかったものの、小5・中2ともに全ての教科で全国値を下回り課題が見られました。

基礎・基本は思考力・判断力・表現力等とともに、学力の重要な要素の一つであることから、子供一人一人に確実に習得・定着させることが大切です。

そのためには、「子供へ声を掛ける」や「子供を認める」などの学習意欲を高める工夫や重点的な指導、繰り返し指導などを位置付ける指導計画の工夫、少人数指導、ティーム・ティーチングなどの指導体制の工夫など、子供一人一人に応じた指導を充実させ、魅力ある学校づくりを推進していく必要があります。

1 学習意欲を高める工夫

○ 「子供に声掛けし、声を聴く」「子供をほめ、認める」の実践

- ・授業の中で「5つの提言」にある「子供に声掛けし、声を聴く」を心がけ、一人残らず全員への声掛けを実践する。
- ・子供の発言や取組等を「ほめ、認める」ことを積極的に行い、一人一人に自己有用感を味わわせる。
- ・教師が「ほめ、認める」ことを実践することにより、子供同士が認め合う雰囲気や学級に醸成する。



先生が笑顔でほめ方の手本を示しましょう。

特別な成果を上げた子どもだけをほめているといつも同じ子供をほめることになりがちです。小さなこと、当たり前に行っていることを探し出してほめましょう。

○ 学習の見通しをもたせる工夫

- ・本時で身に付けさせたい力、目指す児童生徒の姿を明確にし、ねらいを設定する。
- ・めあて・課題は子供の視点に立ち、1時間で何ができるようになればよいのか、ゴールまで見通せるように具体的な表現で示す。



「問題を解く」ことがめあてではありません。本時で何ができるようになればよいのが重要です。

問題（課題）提示により、「なぜだろう？」という疑問や知的好奇心を引き出すことが、「考えたい」「解決したい」という意欲につながります。

2 指導計画の工夫

○ 重点的な指導、反復練習などの指導計画への位置付け

- ・単元指導計画の中で確実に身に付けさせたい内容やつまずきやすい内容を明確にするとともに、重点的な指導や補充的な学習、反復指導などを位置付ける。
- ・1単位時間に重点的な指導、補充的な学習、適用問題の練習などを位置付ける。
- ・レディネステストを活用し、児童の実態に応じた問題や学習が遅れがちな子供のためのスモールステップの問題、補充的な学習を用意するなどきめ細かな指導を工夫する。

○ 身に付けた基礎・基本の活用

- ・次の学習や他の学習、生活の場で生きた知識として活用できることを実感できる機会を指導計画に位置付ける。
- ・身に付けた基礎・基本の定着を一層確実にする学習活動を指導計画に位置付ける。



学習したことが生活の中で役立っていることを実感させることが大切です。

3 指導体制の工夫

○ 個に応じた指導のための指導体制の工夫

- ・ティーム・ティーチングや少人数指導（習熟度別等）などの指導体制を工夫する。
- ・どの教科の、どの単元で（授業のどの場面で）どのような指導体制にすれば最も効果的に個人差に応じた指導ができるかを考える。



少人数指導を行うことが目的ではなく、少人数指導を一つの手段として、児童生徒一人一人にどう対応し、どう学習を成立させるかが重要です。



クラス分けは児童の希望を生かしつつ適切に分けることが大切です。

- ・一斉指導だけでなく、個別指導やグループ別指導など指導形態を工夫する。

○ 教師の専門性を生かす指導体制の工夫

- ・教頭や教務等を活用した教科担任制を工夫するとともに、合同授業や交換授業など教師の専門性を生かした指導体制を工夫する。（小学校）
- ・司書教諭や養護教諭、栄養教諭等の専門性を有する教員を活用する。

4 繰り返し学習の充実

○ スキルタイム等の充実

- ・朝の活動や帰りの時間に短時間のスキルタイムを設定し、漢字や計算の繰り返し学習を行う。
- ・放課後学習や長期休業中のサマースクール、ウィンタースクールなどを設定し、主体的な学習の時間を設定する。



マンネリ化しないよう、評価を工夫するなどしてがんばった成果が実感できるようにし意欲を持続させることが大切です。

○ みやぎ単元問題ライブラリーや県調査の補充問題、全国調査の過去問等の活用

- ・みやぎ単元問題ライブラリーや県学力・学習状況調査の補充問題、全国学力・学習状況調査の過去問等を積極的に活用する。



毎日の積み重ねが大切です。「継続は力なり」です。

5 書くことの充実

○ 授業への「書くこと」の積極的な導入

- ・書くことで考えが促されたり、整理されたりするなど思考力を高めることから、書くことを指導過程に位置付ける。

- <自力解決の場面で>・教科書や資料、データをもとに、自分の考えを理由や根拠を明確にして筋道立ててまとめさせる。
 - ・図や式、言葉など多様な表現で相手にわかりやすく説明できるように書かせる。
- <集団解決の場面で>・相違点や共通点、新しい気付きなど友達の考えから学んだことをメモさせる。(色別などの工夫をする。)
- ・学び合いの後、考えを見直したり、書き加えたりさせる。



自分の考えの変容がわかるように書かせることがポイントです。色分けにするなどの工夫も効果的です。

- <振り返りの場面で>・新しくわかったこと、達成目標への自己評価、新しい疑問点や課題などを自分の言葉で書かせる。(感想のみにしないで具体的に)

○ ノート指導の工夫（発達段階に応じて）

- ・学びの過程がわかるようなノートの取り方を指導する。(学年や教科で共通理解を図る)
- ・ノートはできれば授業ごとに回収して評価することで、児童生徒の意欲や思考力、表現力を高めることができる。
- ・板書の視写も効果的に取り入れる。
(板書の構造化が求められる。)



机間指導しながら、一人一人の考えを見取り、賞賛の声掛けや、適切な助言をしましょう。

○ 「書くこと」の抵抗をなくす指導の充実

- ・国語は無論のこと、教科等でも書き方の指導を工夫をする。
- ・書き方を掲示したり、ファイルにさせ、どの授業でも使えるようにする。
- ・短文づくりや事実と感想を一文ずつ書かせる日記などを続け、書くことに慣れさせる。

「書くこと」指導のポイント

- * 字数や段落など条件に沿って書くことに慣れさせる。
- * モデル文を示し、まねさせることから始める。
- * 書き出しや「はじめに」「それから」などの接続語を示す。
- * 主語や述語の文を書かせ、次に主語、述語を詳しく書かせる。
- * 書き方は教えることよりも気付かせることで身に付く。
(二つの文を比較して良い書き方に気付かせるなど)

6 学習のきまり・学習環境の整備

○ 学習のきまり（やくそく）の徹底

- ・学習用具の準備や学習態度など、集団で学習するためのきまり（やくそく）を学年に応じた言葉や絵で示し、全職員で全学年の徹底を図る。
- ・小中連携を図り、9年間を見通した「学習のきまり（約束）」にするとともに、家庭への周知も図り、家庭とも連携をして指導を行う。
- ・児童生徒が自ら気付き、きまりを実践するよう児童生徒同士の声掛けを奨励する。



上級生が下級生に授業を見せ手本を示したり、下級生が上級生に見てもらってアドバイスをうけたりすることが効果的です。

○ 「話し方」「聞き方」の指導の徹底

- ・「話型」を提示するなど学年に応じた指導を全校で徹底する。
- ・「話し方」「聞き方」の指導は、相手の聞き手、話し手を意識させることを大切に行う。
- ・考えを述べるときは理由や根拠が大切であり、相手を納得させることを意識させる。

話し方のポイント

◆理由や根拠を述べる時

その理由は	なぜかという	なぜなら
例えば	第一に（第二に）	まず（次に）
もし～だったら	たぶん～	

◆理由や根拠を付け足す時

さらに	また	それに	付け足すと	何よりも
-----	----	-----	-------	------

◆比較・分類・関連付けるとき

○○さんの考えと同じで（違って）
○○と□□を比べると
△△に着目すると○○と□□は同じ（違う）仲間だから
◇◇と□□はつながって（関連して）いるから

◆結論（考えのまとめ）を伝えるとき

このように	以上のように	以上を考え合わせると		
まとめると	よって	したがって	だから	つまり

聞き方のポイント

- ◆相手の話が終わるまでだまって（目と耳と心で）聞く。
- ◆うなずいたり、あいづちをうったりしながら聞く。
- ◆気付いたことをメモしながら聞く。

○ 学習環境の整備の工夫

- ・各教室や少人数教室等の学習コーナーの充実を図る。（例えば、教科の重要事項をカード化して掲示するなど。）
- ・学習のまとめを児童生徒の言葉でまとめ掲示したり、クイズコーナーを設けたり、さらには児童生徒の優れたノートを紹介するなど、児童生徒の学習意欲を引き出す環境をつくる。

○ 読書環境の整備の工夫

- ・学校図書館の整備を図るとともに、教室に図書コーナーを設けるなど読書環境を整備する。
- ・読み聞かせや推薦本の紹介、多読者の表彰など児童生徒の本への関心を高め読書習慣を身に付けさせる工夫をする。



朝読書など全校一斉の読書は、落ち着いて学習へ向かおうとする態度の育成にも効果的です。

7 家庭学習の充実

○ 「家庭学習の手引き」「家庭学習計画表」の活用

- ・ 学習の手順や時間、学習内容等をまとめた手引き（児童生徒用、保護者用）を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。
- ・ 主体的な家庭学習となるよう計画表や自主学習ノートなどを工夫する。



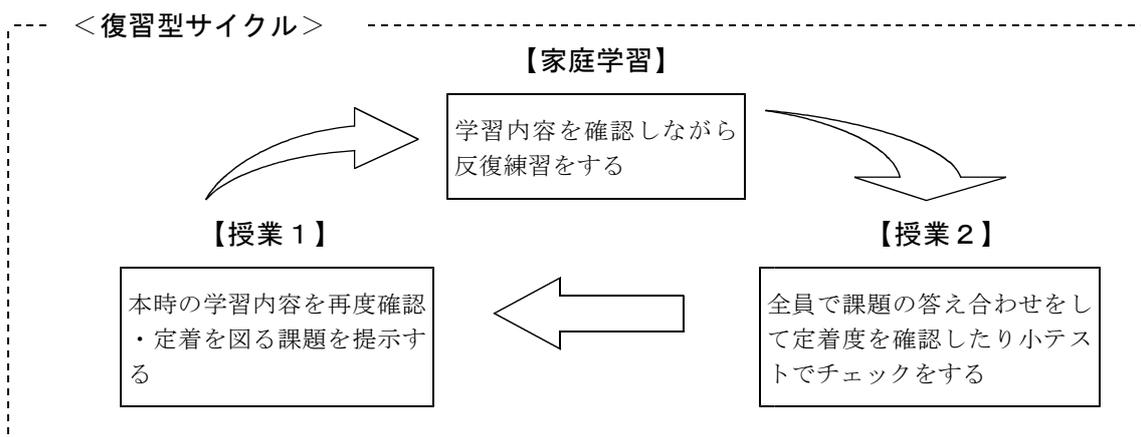
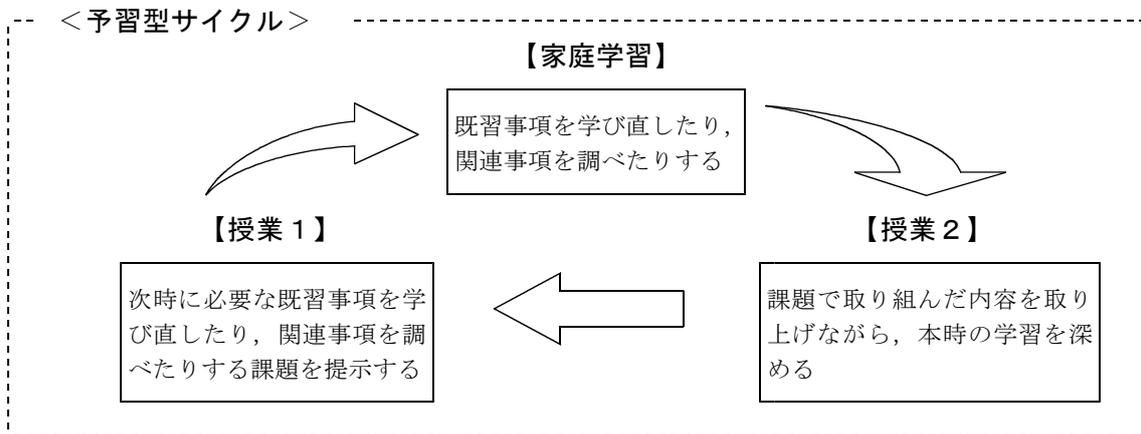
家庭学習の量や内容は、学年ごとに全職員で方針を統一しておきましょう。



「家庭学習ノート」はしっかりコメントを返すのが先生の役割です。先生のコメントを期待して子供は頑張ります。

○ 授業と家庭学習を連動させる工夫

- ・ 授業での学習内容を習熟させる問題（復習型）や次時の学習内容に関わる問題（予習型）などを家庭学習の課題にするなど、授業と家庭学習をつなぎサイクル化する工夫をする。
- ・ 家庭学習を授業で活用したり、評価したりするなど、家庭学習にやりがいをもたせる工夫をする。



『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

学力向上に向けた5つの提言

1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

2 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

5 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。何よりも保護者から、子供に声を掛けたり子供の努力を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになります。そのことを保護者に伝えましょう。また、各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。